

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **75** 2021
February

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.18

東大寺からMBTコロナ対策
Web座談会を中継しました



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.18	3
日本医療研究開発大賞「厚生労働大臣賞」を受賞しました	5
大学機関別認証評価(実地調査)を受審しました	6
MBT 研究所だより(第19報)	8
図書館だより	9
国際交流センターだより	10
先端医学研究支援機構だより	11
未来への飛躍基金だより	12

Campus News

奈良県立医科大学 奈良健康フェア2020をWeb開催しています	13
高度医療技術修得者の認定証交付式について	13
奈良臨床漢方医学セミナー(泌尿器科領域編)を開催しました	13
リサーチクラークシップから論文掲載へ	13
MBT ウエルシア薬局健康ステーションを開催しました	14
MBT コロナ克服キャンペーンを全国へ展開	14
V-iCliniX 講座運営委員会を開催しました	14
国土交通省のプロジェクトにMBT 研究所が参加しました	14
高大連携教育を推進しています	15
キャンパスミーティングを開催しました	15
札幌市議会がMBT の活動状況を視察に来られました	15
公益社団法人 日本口腔外科学会の理事長に就任いたしました	16
MBT によるコロナ無料相談で医学的知識を社会に還元を!!	16
お茶によるコロナ不活化効果を発表しました	16
MBT が、大学機関別認証評価の特色あるテーマに取り上げられました	17
市民のための省エネ・節電セミナーにてMBT の講演をしました	17
アーバンデザインスクールにてMBT の講演をしました	17
西日本医学生学術フォーラム2020に参加しました	17
北海道更別村でMBT フォローアップ会を行いました	18
医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	18
協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	18
今井町におけるMBT 健康教室を再開しました	18
MBT ビジネス活性化ウェブセミナーを開催しました	19
MBT 特命教授の特別講演会を開催しました	19
東大寺からMBT コロナ対策Web 座談会を中継しました	19

Winner Report

「第17回森村豊明会奨励賞」を受賞しました	19
第45回日本脳卒中学会学術集会で学会賞優秀口演賞を受賞しました	20
日本肝臓学会研究奨励賞を受賞しました	20
日本動物学会 茗原真路子研究助成を受賞しました	20
第49回日本リウマチの外科学会で若手奨励賞 優秀賞を受賞しました	20
第116回日本精神神経学会学術総会にて国際学会発表賞を受賞しました	21
第47回日本肩関節学会で第33回高岸直人賞を受賞しました	21
日本精神保健福祉連盟会長表彰	21
第27回日本排尿機能学会 学会賞(臨床研究)を受賞しました	21
第79回日本公衆衛生学会総会で優秀口演賞を受賞しました	22
第79回日本公衆衛生学会総会で優秀口演賞を受賞しました	22
第79回日本公衆衛生学会総会で「口演賞」を受賞しました	22
日本輸血細胞治療学会より第19回 村上記念賞を受賞しました	22
令和2年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました	23
第68回日本化学療法学会西日本支部総会学生セッションで優秀賞を受賞しました	23
第68回日本化学療法学会西日本支部総会学生セッションで優秀賞を受賞しました	23
令和2年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました	23
第10回阿曾賞(日本泌尿器内視鏡学会)を受賞しました	24
第5回トランスポーター研究会関東部会で優秀ポスター賞を受賞しました	24
第31回日本臨床口腔病理学会の優秀発表賞を受賞しました	24
第22回日本臨床神経生理学会優秀論文賞を受賞いたしました	24
奈良県警察本部長より感謝状を贈呈されました	24
令和2年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	25
第13回日本泌尿器科学会ヤングリサーチグラント受賞記念講演	25
令和2年度 外部資金獲得状況	25

寄附者ご芳名

Information

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	30
メディア掲載情報	31
公開講座情報/編集後記	32

アントレプレナーシップあふれる医科大学へ

－奈良医大発ベンチャー企業立ち上げの勧め－

理事長・学長 細井 裕司

新年あけましておめでとうございます。

現在、新型コロナウイルス感染症の第3波のまっただ中にあります。昨年末には、大学、病院の役員と共に、荒井知事に面会し、奈良医大の受け入れ体制等、特に大学病院の役割について直接説明させていただきました。その結果、当初県からの要請があった150床(内重症11床)の受け入れ病床数は、80床(内重症14床)に変更されました。附属病院の機能がより十分に発揮できる環境になったと思います。

この年末年始、12月29日～1月4日(午前7時まで)の期間中の新入院患者数は確定が22人、疑似症が17人で、1月3日午前9時現在の入院患者数は55人(軽症31人、中等症19人、重症5人)でした。また発熱トリアージ外来には多数の患者さんが来院されました。この年末年始を含めて、昨年来、本学スタッフの皆さん方には献身的に取り組んでいただきました。心から感謝を申し上げます。本年も、ワクチン接種など多くの行うべきことがあります。奈良県における最終デフェンスラインとしての期待に立派に答えられるように、努力していく所存です。

本年もご理解、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

奈良医大がコロナ禍を乗り越えて発展する強い意志を込めて、将来に向けた「アントレプレナーシップの推進」について提案します。

奈良医大を他の81医科大学にはない 特徴ある特別な医科大学に

－アントレプレナーシップ－

今日までもこの目的のため、多くの試みを実践してきました。主なものを例に挙げますと、未来への飛躍基金、学生の高偏差値、国内外におけるリサーチクラークシップ、臨床英語、高いマッチング率、外科マスター制度、ドクターN制度、看護学科における新領域の創設、海外大学との連携、若手・女性・医療スタッフの研究支援、全国に奈良医大キャンパス(連携大学院・研究所)5カ所設置、保育園の充実、フレキシブルな勤務システムの導入、MBT構想などです。これらの発展に加えて、アントレプレナーシップの推進として奈良医大発ベンチャーの立ち上げを提案したいと思います。

アントレプレナーシップ ("entrepreneurship")とは

アントレプレナーシップは、「起業家精神」と訳されていますが、「新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味しています。

医学者は研究成果を論文で発表することによって、完結すると思っている人もおられます。しかし、真に世の中の役に立つためには、製品やサービスとして人々のもとに届けられなければなりません。そこにはアントレプレナーシップが必要です。

国の政策

これは、国の施策でもあります。2014年6月に、安倍内閣が日本再興戦略を閣議決定しました。「今後10年間で、20件以上の『大学発新産業創出』を目指す」、そして「大学発ベンチャー支援ファンド等への出資を可能とする」といった大学改革が決定されました。つまり、大学は「教育、研究機関としてだけでなく、産業を創出し、起業を促進して、直接国益に貢献する」事を求められています。起業を国が推奨したことによって、大学発ベンチャーの起業が活発化しました。

大学発ベンチャーは、 存在感のある大学の要素

表1に示しますように、現在、大学発ベンチャーは、国内に2566社存在しています。大学別ランキングでは、1位の東京大学(268社)を筆頭に、京都大学、大阪大学、東北大学、九州大学、筑波大学、名古屋大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京工業大学がトップ10となっています。このランキングは、世間が存在感のある大学と認めるランキングとほぼ同じです。

なぜ奈良医大発ベンチャーは 1社しかないのか？

現時点では、本学発ベンチャーは1社しか存在しません。それは、多くの単科の医科大学が共通に持っている「アントレプレナーシップは自分達には関係がない。」という固定観念によるのが一因であると考えています。その証拠に、公立医科大学発のベンチャー企業数は、一番多い福島県立医大で3社、京都府立医大と本学が1社、札幌医大と和歌山県立医大には起業はありません。私は、医師、看護師、研究者にとっても、アントレプレナーシップは重要な要素であると考えています。そして、本学の教職員・学生には、この能力が十分に備わっていると感じています。そこで、本学においては、「アントレプレナーシップは別世界なものでなく、当たり前的事」という環境を作りたいと考えました。そして研究は論文で終了とせず、人々に役立つ製品やサービスとなって社会に貢献するものであってほしいと願っています。

表1 大学発のベンチャー企業数

【日本国内の現状】 大学発ベンチャー総数：2566社

【ベンチャー企業数、大学ランキング】

1. 東京大学	268 (社)
2. 京都大学	191
3. 大阪大学	141
4. 東北大学	121
5. 九州大学	117
6. 筑波大学	114
7. 名古屋大学	94
8. 慶應義塾大学	85
9. 早稲田大学	85
10. 東京工業大学	75

【公立医科大学】	
福島県立医大	3 (社)
京都府立医大	1
奈良県立医大	1
札幌医大	0
和歌山県立医大	0

理事長・学長からのメッセージ vol.18

奈良医大発ベンチャーの起業を後押しする MBT コンソーシアムの近況

2004年に私がMBTの前身である住居医学を想起し、17年の歳月を経て、単科の医科大学のもとに、180社が集まる世界に類例がないコンソーシアムに発展してきました。本社所在地の都道府県別では、東京都が64社と最も多く、次いで大阪府52社、奈良県30社と全国規模となっています。これも、奈良医大の教職員の皆様の熱意とご協力のおかげと感謝申し上げます。(図1、表2参照)

この180の企業集団は平時においても奈良医大の研究を支えています。例えば、MBTコンソーシアム会員企業と奈良医大の産学連携プロジェクトは17あります。また、ひとたび大事が起こると奈良医大とともにその災難に立ち向かいます。このたびのコロナ禍においても、その協調関係が働き、世界で初めて「オゾンが新型コロナウイルスを不活化すること」を明らかにし、国際医学誌に掲載されました。この発表を機に、数十社が奈良医大のもとに集まり、この国難を乗り越えるための研究や製品開発を行っています。奈良医大で発見した「柿渋が新型コロナウイルスを不活化する」という発表に対しても、十数社が製品開発に取り組んでいます。光触媒やお茶の効果も世界に先駆けて奈良医大から報告後、会員企業とこの発見の恩恵を世界に届ける準備をしています。

図1

MBT コンソーシアム 会員企業 本社所在地

(2021年1月12日現在 180社)

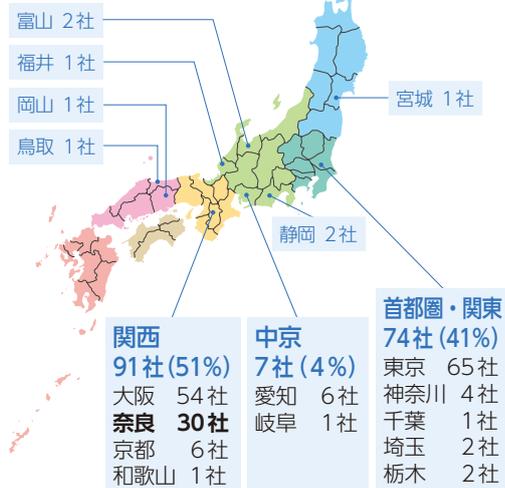


表2 MBT コンソーシアム会員業種別リスト (2021年1月12日現在 180会員)

業種別	MBT コンソーシアム会員分類	企業数
1、農林・水産・鉱業		0
2、建設	(株)イムラ、(株)興村組奈良支店、(株)キャンディル、(株)きんでん奈良支店、(株)グッドライフ、グリーンアーム(株)、(株)崎山組、積水ハウス(株)、大和ハウス工業(株)、大和リース(株)、(株)内藤建築事務所、松田電気工業(株)、(株)松田平田設計	13
3、食品	石井物産(株)、江崎グリコ(株)、春日井製菓(株)、カバヤ食品(株)、カンロ(株)、キリン(株)、寿スピリッツ(株)、三和製粉工業(株)、中日本カプセル(株)、(株)パロックス、(株)ポタジェ、UHA味覚糖(株)	12
4、繊維・パルパ・紙	(株)サンロード、(株)島田、(株)新生、(株)高木包装、(株)タチバナ、(株)人フロンティア(株)、東洋紡(株)、(株)Bonrich、日清紡ホールディングス(株)、日本エレテックス(株)、(株)野崎染色、(株)三笠、ミツフジ(株)、モード・ユニット工房(株)、(株)ワコール	15
5、化学	(株)コーセー、J S R(株)、積水マテリアルソリューションズ(株)、住友ベークライト(株)、(株)テクノープル、ナスクナテクノロジー(株)、山本商事(株)	7
6、医薬品	クオール(株)、(株)グランソール免疫研究所、佐藤薬品工業(株)、(株)ツムラ、日本ペーリンガーインゲルハイム(株)、丸石製薬(株)、ロート製薬(株)	7
7、石油・ゴム・窯業		0
8、鉄鋼・非鉄・金属	丸一鋼管(株)	1
9、機械	(株)アベックス、KTX(株)、(株)タカゾノ、(株)タカトリ、DMG 森精機(株)、テクノグローバル(株)、不二精機(株)、ユニオンツール(株)	8
10、電気機器	(株)アズマ、(株)HBコーポレーション、(株)エム・エイチ・シー、応用電機(株)、(株)オーディオテクニカフクイ、(株)コムテック、シロカ(株)、シンクロア(株)、(株)タムラテコ、(株)ドゥエルアソシエイツ、(株)日本トリム、日本捲線工業(株)、パナソニック(株)、ファーストネーションズ(株)、富士通(株)、船井電機(株)、マクセル(株)、(株)村田製作所	18
11、輸送機器		0
12、医療・精密機器	岩崎工業(株)、エンプラス(株)、大研医器(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、(株)ケアコム、セン特殊光源(株)、テルモ(株)、凸版印刷(株)、奈良精工(株)、ニプロ(株)、(株)フィリップス・ジャパン、(株)プロロート丸光、丸三製薬バイオテック(株)	13
13、その他製造	あけぼの化成(株)、(株)REO 研究所、エクレール(株)、(株)MTG、オープ・テック(株)、カナサシテックサービス(株)、(株)キシマ、グラストップ(株)、(株)サンクレスト、三友商事(株)、昭和西川(株)、(株)ゼノン、ダイドレ物流(株)、(株)デルフィノケア、(株)トラストレックス、(株)フジ医療器、(株)プチファーマシスト、(株)マンダム、やまと真空工業(株)、レック(株)	20
14、商業	(株)イマナカ、(株)暁星ジャパン、BESTJAPAN (株)、(株)ONE	4
15、金融・保険	アフラック生命保険(株)、M S & AD インターリスク総研(株)、損害保険ジャパン(株)、(株)南都銀行、日本生命保険(株)、(株)三井住友銀行	6
16、不動産		0
17、運輸・倉庫	近鉄グループホールディングス(株)	1
18、情報・通信	アイテック阪急阪神(株)、(株)NTデータ経営研究所、近鉄ケーブルネットワーク(株)、KDDI(株)、(株)KDDI総合研究所、コニカミノルタ(株)、(株)三技協、(株)産業経済新聞社、Takusu(株)、西日本電信電話(株)奈良支店、日新ネットワークス(株)、(株)日本経済新聞社、(株)プロアシスト、丸紅情報システムズ(株)、(株)三菱総合研究所	15
19、電力・ガス	大阪ガス(株)、関西電力(株)、(株)関西エネルギーソリューション、大和ガス(株)、奈良電力(株)	5
20、サービス	(株)インデックスコンサルティング、(株)エクスレイヤー、(株)SRA、(一社)観光品質認証協会、環境衛生薬品(株)、北関東総合警備保障(株)、(株)Kirala、(株)健康都市デザイン研究所、(一財)弘済会、(株)小山、(株)サンズパル、サンワテクノス(株)、大和リゾート(株) THE KASHI ARA、(株)ドクターネット、(株)ドートルコーヒー、(株)日経アドエージェンシー、ニューロネットワーク(株)、(株)プレス、ヘルスグリッド(株)、明豊ファシリティアークス(株)、(株)メディカルノート、メディアケアリンク(株)、(株)ライブビジネスウェザー、リーズンホワイ(株)、ロイヤルコントラストサービス(株)、(株)ローン奈良支店、ワタキューセイモア(株)	27
21、公共・その他 (自治体、大学、病院)	橿原市、東急(株)東急病院、奈良県、奈良県立医科大学、奈良友誼会病院、西の京病院、日本タフティールタッチ協会、個人会員1	8

MBT コンソーシアムは本学発ベンチャーの起業をお手伝いします。

教職員や学生の方々の中でも、アントレプレナーシップがあり、起業したいと考えている方がおられます。しかし、「会社の立ち上げ方法がわからない。」と言われる。起業するためには、通常は綿密な事業計画、資金計画を立て、登記しなければなりません。今回の提案「奈良医大発ベンチャー立ち上げの勧め」においては、MBT コンソーシアムが伴走コンサルティングを行います。まずは口頭にて、大まかな構想をMBT コンソーシアムまでご連絡ください。

おわりに

仕事始め式、一斉メール、教授会で「奈良医大にアントレプレナーシップを根づかせよう」という呼びかけを行いましたところ、予想以上の反響がありました。早速、数教室と奈良医大発ベンチャーの具体化に向かって協議を始めました。学生からの問い合わせもありました。奈良医大にも多くのアントレプレナーシップを持った先生方や学生がいることがわかり、奈良医大の将来が大変明るいと感じました。今後は、これを一つ一つ実現に向けてサポートしていきたいと考えています。そして、みなさんのご協力を得て奈良医大が他の公立単科医科大学とは明らかに異なる特別な医科大学になることを期待しています。

日本医療研究開発大賞「厚生労働大臣賞」を受賞しました

本学の嶋医学部長が第4回日本医療研究開発大賞の厚生労働大臣賞を受賞しました。研究業績名は「血液凝固第Ⅷ因子機能を代替するバイスペシフィック抗体医薬の創製」で、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進の観点から顕著な功績であるとして受賞したものです。

授賞式当日は、総理大臣官邸において、菅 義偉総理からは、「研究開発は、成果が出るまで時間がかかる場合もあれば、成果に至らない場合もあると思います。皆様はそうしたご苦勞を乗り越えて、目標を高く持ちながら努力を続け、大きな業績を挙げてこられ、心から敬意を表するとともに、医療分野の研究開発の支援に、政府として引き続き全力を挙げて取り組んでいきたいと思ひます。」と挨拶をいただくとともに、田村憲久厚生労働大臣より表彰状を手渡されました。



【成果の概要】

本製剤一般名 エミシズマブ、商品名ヘムライブラ皮下注は血液凝固の活性型第Ⅸ因子および第Ⅹ因子を認識するバイスペシフィック抗体製剤で、活性型第Ⅷ因子の凝固活性機能を有するという全く新たな概念に基づく血友病A治療製剤です。

エミシズマブは、中外製薬株式会社と奈良県立医科大学小児科学教室との間で行われた、開発段階からその臨床研究の、前臨床、臨床各段階にわたる15年余の産学共同プロジェクトの成果として生み出され、その第Ⅰ相試験と第Ⅱ相試験が奈良県立医科大学の主導の下に世界に先駆けて我が国で実施されました。

エミシズマブは従来の血友病A治療に関する克服すべき様々な問題点を一気に解決し、世界中の血友病A患者さんのQOLを劇的に改善～正常化しうるポテンシャルを持っています。



総理大臣官邸において記念撮影（前列左から2番目 嶋医学部長）

医学部長 嶋 緑倫

このプロジェクトは、2003年に中外製薬の研究者から第Ⅷ因子の活性を有するプロトタイプの抗体に関する話をお伺いしたことがきっかけでした。その時の興奮は未だに忘れることができません。なぜなら、今までの血友病治療の未解決の課題であった頻回の静脈注射とインヒビター（第Ⅷ因子を中和する抗体）の問題を一挙に解決できる可能性があったからです。それからの道のりは山あり谷ありでしたが、諦めず続けたおかげで現在のemicizumabを作製することができました。奈良医大小児科が研究開発や臨床研究に大きく関わったmade in Japanの製剤が世界で使用され、患者さんのお役に立っていることは本当に嬉しく思っています。このプロジェクトが成功したのは中外製薬の研究者魂、吉岡章前学長のご支援と野上恵嗣准教授をはじめとする奈良医大小児科の努力の賜物です。改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

大学機関別認証評価（実地調査）を受審しました

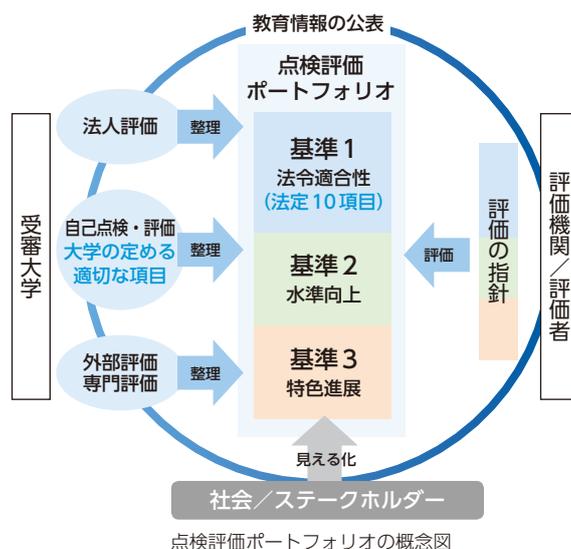
大学は、教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関の実施する大学機関別認証評価を受けることが学校教育法第109条に義務付けられています。

本学は今年度が大学機関別認証評価の受審年度に当たり、5月に評価機関である「一般社団法人 大学教育質保証・評価センター」宛てに自己評価書（点検評価ポートフォリオ）を提出し、当該評価書を基に、11月26日（木）に評価機関による実地調査を受審しました。通常の実地調査は、評価機関の評価員が大学に直接訪問して行われますが、今回は、今般の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、ZOOMを用いたオンライン形式で実施されました。

実地調査は午前、午後の二部構成で実施され、第一部の午前中は、本学の教育研究活動及び大学運営に関する以下の3つの大学評価基準について、自己評価書では確認しきれなかった点などを中心に評価員からの質疑が行われ、細井学長、嶋医学部長をはじめとする本学役職員が質疑に回答する方式で実施されました。



第一部の「オンラインでの実地調査」の様子



点検評価ポートフォリオの概念図

《大学評価基準》

基準1 基盤評価： 法令適合性の保証

大学は、法令を遵守した上で、教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表しなければならないとされており、以下の事項について自己点検及び評価を行った。

- イ：教育研究上の基本となる組織に関すること（大学、大学院）
- ロ：教員組織に関すること（大学、大学院）
- ハ：教育課程に関すること（大学、大学院）
- ニ：施設及び設備に関すること
- ホ：事務組織に関すること
- ヘ：卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針に関すること
- ト：教育研究活動等の状況に係る情報の公表に関すること
- チ：教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組みに関すること
- リ：財務に関すること
- ヌ：イからリまでに掲げるもののほか、教育研究活動等に関すること

基準2

水準評価： 教育研究の水準の向上

大学は、自らの教育研究の水準の向上を図ることに努めなければならないとされており、以下の4点に関して自己分析活動を行った。

- 1 臨床実習中間時点に導入した形成的評価試験「臨床医学能力到達度評価試験（CNAT）」に基づく学習指導
- 2 授業や学習環境などの改善のための現状分析
- 3 科学研究費助成事業獲得向上のための現状分析
- 4 本学の研究力の現状分析

基準3

特色評価： 特色ある教育研究の進展

大学は、法令を遵守し教育研究の水準の向上に努めるとともに、特色ある教育研究を展開していくことが求められており、以下の5点の特色ある教育研究を自己評価した。

- 1 豊かな人間性に基いた高い倫理観の涵養を目的とした「良き医療人育成プログラム」の実践
- 2 建学の精神である最高の医学と最善の医療を実践する医療人の養成を目指した独自カリキュラムの導入
- 3 看護学科・国際看護論Ⅱ「タイ王国チェンマイ大学看護研修」
- 4 地域に根差し地域と歩む研究（重点研究領域）について
- 5 日本を世界を牽引する研究（重点研究領域）について

第二部の午後からは、特色ある教育研究の進展や内部質保証に関する評価を行うために、大学が示した取り組みを議題として、大学の教職員以外に、学生や企業関係者なども参加し、取り組みに関する“参加型評価”として行われる「評価審査会」が実施されました。

審査テーマとして選定されたのは、地域に根差し地域と歩む研究（重点研究領域）であるMBT（医学を基礎とするまちづくり）の取り組みです。

MBT 研究所細井所長からはMBTの経緯やその理念に基づく新型コロナウイルス対策活動について、梅田副所長からはバイタルセンサ等を活用したライフスタイルセンシング実証実験やそのデータを利用した遠隔見守りサービスの構想など全国各地で展開中の取り組みを紹介しました。

また、富士通株式会社・近鉄ケーブルネットワーク株式会社・関西電力株式会社のMBTコンソーシアム参加企業3社から、これまでのMBTコンソーシアム部会での共同開発や今後の連携について説明しました。

また、学生代表として、大学院生・大井川仁美さん、学部生・齊藤正一郎さんから、それぞれの研究成果やMBT構想に触れて以降の研究・学習における意識の変化や学生の視点から考えるMBTの今後の課題について説明しました。

質疑での話題は、現在の活動についてだけでなく、MBTの理念が将来にわたって継承されていくためのシステム作りにも、終始活発な意見交換を行いました。

なお、今回受審した認証評価の結果は、令和3年3月に確定され、同時に、公表される予定となっています。



第二部の「評価審査会」の様子

1. MBT コロナ克服キャンペーン

MBT コロナ対策・企業相談分科会は、3密回避より、より本質的な3感染ルート（接触、飛沫、エアロゾル）遮断を重視したコロナ対策の無料相談を進めてきました。多くの業種から相談を寄せられ、奈良医大感染症センター笠原敬病院教授を中心に、Web相談、現地相談等の対応をしております。今後は「MBT コロナ克服キャンペーン～3感染ルート遮断をしていますか～」のキャッチフレーズのもとに活動をさらに全国に向けて展開することとしております。



東大寺の参籠衆が修行する室内現場で助言

【代表事例】

- * 観光地のホテル、旅館のコロナ対策（例：吉野町）
- * 商店街のコロナ対策（例：奈良市餅飯殿商店街）
- * ホテルのビッグイベントのコロナ対策（例：大和ロイヤルホテルや奈良ホテルの結婚式場、大宴会場）
- * 宗教行事のコロナ対策（例：東大寺のお水取り、教会のミサ）
- * 企業主催のビッグイベントのコロナ対策（例：日本経済新聞社、関西文化学術研究都市機構）
- * ホテル、旅館等の安全行動基準の監修
- * 各種コロナ対策特集記事の監修

2. コロナ不活化の評価や研究成果をもとにした技術・商品のメディア発表

5月15日、奈良医大微生物感染症学講座矢野寿一教授、中野竜一准教授が、世界初のオゾンガスによる新型コロナウイルス不活化確認の発表を行って以来、多くの国内外企業から、自社商品のコロナ不活化評価や共同研究の申し入れがあり、その数は150社を超えています。さらにその評価や研究成果をもとにした技術紹介や商品に関する各企業のメディア発表が既に15件以上なされております。

3. 柿渋によるコロナ不活化

9月15日、奈良医大免疫学講座伊藤利洋教授、微生物感染症学講座矢野寿一教授が記者会見を行い、世界初の柿タンニン（柿渋）による新型コロナウイルスの不活化を確認するとともに、不活化の条件を実験的に明らかにしたことを発表し

ました。この研究成果をもとに製品化を進める企業を公募したところ、50社以上の企業から応募があり、研究開発合意ができた企業から柿タンニンを活用した食品等の共同開発を進めているところです。

4. ACT 京都創立7周年記念フォーラム

11月19日、「京都市成長産業創造センター（ACT 京都）」の創立7周年記念フォーラムで、細井理事長が基調講演を行いました。会場とWeb参加合わせて120人を超す関係者に、150社以上ものあらゆる業種の会員企業と連携して医学の知識を活用した新産業創出を行っていること、新型コロナ克服キャンペーンで幅広い対象にコロナ対策相談を実施していることを紹介しました。また、会場では、3感染ルート遮断を重視した感染対策を実施するとともに、参加者にその内容を紹介した資料を配布して感染の本質を啓蒙しました。



講演する細井理事長

5. 市販のお茶にもコロナ不活化の効果があることを確認

11月27日、奈良医大微生物感染症学講座矢野寿一教授は、市販されている緑茶や紅茶など約10種を試した結果、新型コロナウイルス不活化に効果があるお茶があることを世界で初めて確認したと記者会見で発表しました。マスクを外して食事をせざるを得ない外食時のコロナ感染対策に、既に製品化されたお茶がコロナ不活化に有用となれば、感染抑制にも貢献すると考えられます。今回は、銘柄名の公表はできていないので、今後は企業との理解を取りつけて、お茶銘柄の公表を行うとともにお茶メーカーとの新たな共同開発も想定しています。



矢野教授、細井理事長による記者会見の様相

自宅学習お役立ちツール

新型コロナウイルス感染症の影響により、大学に来る時間が減り、思うように学習や研究が進まない方も多いと思います。今回は、学外からでも使えて便利な電子コンテンツをご紹介します。

DB: データベース **EJ**: 電子ジャーナル **EB**: 電子ブック

医: 医学分野 **看**: 看護分野 **APP**: アプリ

辞: 辞書 **DA**: デジタルアーカイブ

リモートアクセス対応コンテンツ

本学で契約している電子コンテンツで、リモートアクセスに対応しているものを集めました。リモートアクセス用の URL と ID/PW は学内ネットワークから図書館のホームページにアクセスするとご確認いただけます。

・**医中誌 Web (今春からリモート対応予定)** **DB 医 看**

国内発行の医学・歯学・薬学・看護学及び関連分野の約 7,500 誌から収録した



約 1,400 万件の論文情報データベース。今まで同時アクセス数 8・学内限定でしたが、この春から同時アクセス無制限のアクセスフリープランに移行します！これにより、同時に何人でも利用可能です。また、学内からだけでなく、自宅や外出先からもいつでも利用できます。スマホ専用画面も用意されていて、PC だけでなくスマホでも快適にお使いいただけます。

・**最新看護索引 Web** **DB 看**

日本看護協会図書館が編集する看護分野に限定したデータベース。日本看護学会論文集のオンライン版が掲載されています。

・**CINAHL Complete** **DB 看**

海外の看護学関係の文献データベース。1937 年からのデータが提供されています。収録誌のうちの約 1,400 誌の全文が見られます。

・**メディカルオンライン** **EJ EB 医 看**

国内雑誌の電子ジャーナル・システム。国内の学会・商業誌約 1,500 誌の全文閲覧ができます。約 2,900 冊の電子ブックも閲覧できます。

・**医書.jp** **EJ 医 看**

国内医書出版大手の医学書院や南江堂などが発行する電子ジャーナルを中心に学会誌も含めた約 100 誌の全文閲覧ができます。サイト内検索では「契約中のコンテンツのみ」にチェックを入れてご利用ください。

・**Maruzen eBook Library** **EB 医 看**

丸善雄松堂が提供するプラットフォーム上で閲覧する電子ブック。「内科学」(朝倉書店)や「実験医学別冊」(羊土社)、「写真でわかるシリーズ」(インターメディアカ)、「【動画】目で見る医学の基礎」(医学映像教育センター)など、さまざまな電子ブックを閲覧できます。

※機関用のリモートアクセス ID/PW は 2021 年 3 月 31 日まで。

学内ネットワークからの利用登録により、個人 ID/PW でのリモートアクセスが可能。

・**Visible Body** **医 看 APP**

Wolters Kluwer 社が提供する 3D 人体解剖学習リソースです。デスクトップ版はリモートアクセス対応です。また、モバイル専用アプリを用いて、タブレットやスマホでも利用できます。(アプリのダウンロードは学内ネットワークから)



無料コンテンツ

無料で提供されているコンテンツを集めました。学外でも ID/PW なしでご利用いただけます。

・**CiNii Articles** **DB** <https://ci.nii.ac.jp/>

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース。

・**国立国会図書館サーチ** **DB** <https://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館、都道府県立図書館、国立情報学研究所、国立公文書館、国立美術館や、民間電子書籍サイト等の、蔵書・出版目録、デジタル資料、立法情報、レファレンス事例等の 208 個のデータベースを横断検索できます。

・**PubMed** **DB 医 看** <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/>

言わずと知れた医学分野の代表的な文献データベース。米国国立医学図書館が作成し、MEDLINE を中心に約 3,000 万件を収録しています。

・**PubMed Central** **EJ 医 看**

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/>

3,000 誌以上の全文閲覧が可能。PubMed で検索できますが、コンテンツの質にバラつきがあります。

・**Google Scholar** **DB** <https://scholar.google.co.jp/>

学術情報に特化した無料データベース。機関リポジトリ掲載文献にも対応しています。

・**DOAJ** **EJ** <https://doaj.org/>

オープンアクセスの電子ジャーナルを集めたプラットフォーム。雑誌名の検索や、一部を除き、論文単位の検索もサポートしています。査読レベルやクリエイティブ・コモンズが提供している利用条件の範囲などが明記されていて、オープンアクセス文献を探す際の参考にできます。

・**GINMU** **DA EJ** <https://ginmu.narmed-u.ac.jp/>

奈良県立医科大学の機関リポジトリ。本学所属の構成員が発表した学術論文や学位論文などの研究成果物を、全世界にインターネットを通じ、無料で公開しています。

・**ライフサイエンス辞書** **辞 医 看**

<https://lsd-project.jp/cgi-bin/lsdproj/ejlookup04.pl>

1993 年から制作・改訂を続けている医学・生命科学用語の電子辞書。シソーラス(同義語)も調べられます。

・**IRDB** **DB** <https://irdb.nii.ac.jp/>

国内リポジトリ掲載文献横断検索データベース。

・**ROAR** **DB** <http://roar.eprints.org/>

海外リポジトリ横断検索・一覧サイト。世界最大の機関リポジトリのリストです。

・**HathiTrust** **DA EJ EB** <http://www.hathitrust.org/>

アメリカの大学図書館で形成される機関協力委員会が始めた共同運営のデジタル化資料のリポジトリ。

・**World Digital Library** **DA EJ EB**

<https://www.wdl.org/en/>

米国議会図書館とユネスコが協同で運営するデジタルアーカイブ。世界中の図書館、美術館、博物館が所蔵する貴重書や手稿などの歴史的文化遗产のデジタル画像を、地域や時代ごとに閲覧できます。

国際交流センターだより

TOPICS: 海外リサーチ・クラークシップ成果報告

海外リサーチ・クラークシップ参加後に研究活動を継続している本学学生(未来基礎医学所属)の研究成果が、共著論文として発表されました。

ご指導を賜りました梅溪通久先生(米国・ヒューストン大学)、高里実先生(理化学研究所)をはじめ、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

FASEB Journal

doi: 10.1096/fj.202002077R (オンライン掲載)
27-Hydroxycholesterol regulates human *SLC22A12* gene expression through estrogen receptor action.
坂口義彦(医学科6年)、長田理瑚(医学科5年)

MESSAGE

ヒューストン大学
Assistant Professor

梅溪 通久

この度、私達の共同研究の成果が FASEB Journal に掲載されました。私は 2019 年夏に奈良県立医科大学を訪問し、森先生や筆頭著者の松林さんや坂口さんなどラボの方々とのディスカッションさせて頂き、皆さんの研究に対する熱意に感銘を受けました。この共同研究を通じて、国際的な研究者として活躍されることを期待しています。



ジャーナルに掲載されて ~海外リサクラとその後の研究活動を通して経験したこと~

医学科6年
坂口 義彦



海外リサクラでシンガポールの南洋工科大学に、その後の研究は本学の未来基礎医学でお世話になって、研究活動を行ってきました。大学の海外リサクラという制度を利用した留学から始まった私の研究活動ですが、初めは研究といっても漠然としてぼんやりとしたものでした。しかし、6年生の今では2年生のリサクラ前の当時では想像がつかない輪郭が徐々に見えるようになってきました。今後、更にどう鮮明になっていくかが大変楽しみです。留学時に金銭的な支援を頂いた未来への飛躍基金、留学中にお世話になった南洋工科大学の田代歩先生、今まで本学の研究で御指導いただいた森先生をはじめとする多くの先生に感謝申し上げます。

医学科5年
長田 理瑚



海外リサクラで台湾大学に留学させていただき、その後は未来基礎医学でお世話になり研究活動を行っています。留学中には、様々な実験や英語でのプレゼンを経験させていただきました。また、研究室の方々とお話することで台湾の文化に触れることもでき、大変有意義な留学生活でした。未来基礎医学では今回のプロジェクトをはじめ、様々な研究プロジェクトに参加させていただいており研究の面白さを感じています。この場をお借りして、留学時にご支援をいただいた未来への飛躍基金、森先生をはじめとする未来基礎医学の先生方に感謝を申し上げます。

MESSAGE

国際交流センター
副センター長
森 英一朗

(未来基礎医学准教授)

本論文は、大学院生の松林成也さんと医学科6年生の坂口さんが共同筆頭著者として取り組んだ研究成果になります。米国・テキサス州・ヒューストン大学の梅溪通久先生と理化学研究所の高里実先生との共同研究によって、研究成果をまとめることが出来ました。医学科5年生の長田理瑚さんも、論文投稿プロセスを通じて、本プロジェクトに参画しました。海外リサーチ・クラークシップの経験を経て、プログラム参加後も積極的に研究活動に取り組み、学会発表や論文執筆に取り組む姿は非常にたくましく、本学の研究マインド醸成教育の取り組みが着実に実を結んでいることを実感できます。



安全保障輸出管理への取り組みがスタートしています

安全保障輸出管理とは

安全保障輸出管理とは、日本を含む国際的な平和及び安全の維持を目的として、武器や軍事転用可能な貨物(装置・試料等)及び技術を大量破壊兵器の開発等を行っている国やテロリスト等の手に渡ることを防ぐための管理制度です。本学では、令和2年4月1日からスタートしました。

学内手続きの流れ

大学には関係ない規制と思われるがちですが、例えば研究活動においては、技術提供や貨物輸出の機会があり、規制の対象となります。

学内における管理手続きとしては、取引をおこなう教職員各自が事前確認チェックを行い、チェックシート等を所管課に提出してください。様式等は学内ホームページ▶国際交流センター▶安全保障輸出管理に掲載しています。

■審査受付の状況 (令和2年12月28日現在) (件)

	輸 出			受 入	合 計
	海 外	国 内			
		貨 物	技術の提供		
教養教育		2	20		22
基礎医学		6	412		418
臨床医学	1	5	1,015	14	1,035
看護学科			16		16
中央部門			56	1	57
寄附講座等			24		24
その他			47	1	48
総 計	1	13	1,590	16	1,620

お問合せ：国際交流センター (内線 2565、2479)

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

1 健康長寿大規模コホート研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、将来像の重点研究2016推進計画に定める重点研究課題の1つとして、健康長寿大規模コホート研究を推進しています。この研究は県下全域の10,000人を対象とした3つの研究課題からなる疫学調査で地域住民の健康意識高揚等を目的とした地域貢献を図っており、このたび10月27日と11月9日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

今年度は、教職員に新型コロナウイルス対策としてWeb配信による同時中継で実施しました。



麻酔科学
川口昌彦 教授

循環器内科学
斎藤能彦 教授

疫学・予防医学
佐伯圭吾 教授

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」

麻酔科学 教授 川口 昌彦

「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地域包括ケア構築に資する実態調査」

循環器内科学 教授 斎藤 能彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾

2 横断的共同研究助成事業 研究成果報告会を開催しました

本学では、複数の講座・領域等で取り組む横断的共同研究活動を助成し、連携研究活動の一層の活性化を図り、本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進する助成事業を実施しています。

このたび、助成期間が終了した研究課題(H30-R1)について次の研究の研究成果報告会を12月4日に開催しました。

今年度は、教職員に新型コロナウイルス対策としてWeb配信による同時中継で実施しました。

「定量型質量分析計を用いたプロテオーム解析のための共同研究プラットフォーム構築」

分子病理学 教授 國安 弘基



3 若きトップサイエンティストの挑戦(リサーチストーリー) vol2 を掲載しています

(本学ホームページ>研究力向上支援センター>若きトップサイエンティストの挑戦>vol2 岩越真一先生(放射線医学 助教) 学内のみ)

放射線医学 助教 岩越 真一先生

このシリーズは、本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話しを伺い学内を始め広くご紹介したいと考えています。本年、放射線分野においてトップクラスのジャーナルである【Radiology】(Impact Factor:7.931)に岩越先生の論文が掲載されました。インタビューでは、論文の概要をご紹介いただくと同時に、今後の抱負なども語っていただきました。また、米国へ留学された際のお話もお伺いしています。今後も定期的にインタビューをしていく予定です。ご期待ください。なお、この内容は、研究力向上支援センターの学内HPに掲載されていますのでご覧ください。



研究支援お役立ち情報(データ集)

(本学ホームページ>研究力向上支援センター>研究支援お役立ち情報(学内のみ))

研究力向上支援センターのHPに研究支援お役立ち情報を掲載しています。JCR (Journal Citation Reports) のインパクトファクター (2018年版~2019年版) やカテゴリー別のインパクトファクター (2019年版) をエクセルデータでご提供しています。また、大学の研究力評価を評価する指標として使用されているTop10%などのベースとなるパーセンタイル (percentile) についても今後情報掲載していく予定です。論文投稿される際などにご活用ください。

医学研究支援センターからのお知らせ

組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました

全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会幹事の吉識肇先生(理化学研究所神戸事業所 安全管理室長)に「遺伝子組換え実験における実験室の安全管理」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や方法、常に安全な組換え実験の実施を意識することの大切さについて、11月17日に講演会を開催しました。

今年度は、本学の組換え実験従事者に向けたWeb配信による同時中継も実施し、新型コロナウイルス対策を踏まえた受講も可能な形式にて、開催しました。

理化学研究所 吉識 肇 先生



未来への飛躍基金だより

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

今号では、『ふるさと納税制度を活用した寄附による控除の仕組みについて』、『ふるさと納税制度を活用した寄附の払込方法について』の2点をご紹介します。

ふるさと納税制度を活用した寄附による控除の仕組みについて

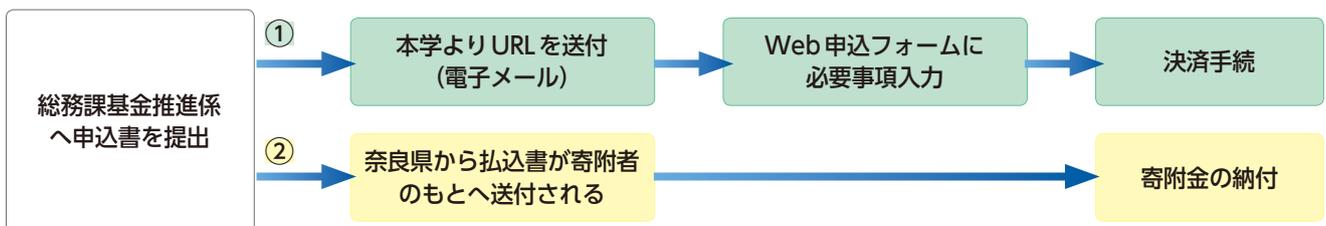
年収700万円（課税所得500万円、所得税50万円、住民税3万円/月）の方がワンストップ特例制度を活用し、令和3年3月に10万円を寄附した場合

	令和3年	令和4年	計
寄附をしないとき	寄附者 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 住民税：36万円 所得税：50万円 合計：86万円	寄附者 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 住民税：36万円 所得税：50万円 合計：86万円	2年間の合計 172万円
ふるさと納税制度を活用した寄附をする場合	寄附者 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 奈良医大へ寄附10万円 → 奈良医大 住民税：36万円 所得税：50万円 寄附額：10万円 合計：96万円	寄附者 住民税約21,833円/月 (年26万2千円) → 納税 住民税：26万2千円 所得税：50万円 合計：76万2千円 ※寄附をすることで翌年の住民税から98,000円が控除されます。	※つまりわずか2千円の支出増で10万円の寄附が可能です。 2年間の合計 172万2千円
確定申告をする場合、令和3年の所得税と令和4年の住民税のそれぞれ控除を受けることができ、上記と同様に2千円の負担で10万円の寄附が可能です。詳しくは基金パンフレットやHPをご確認ください。			

※ワンストップ特例制度とは、もともと確定申告の不要な給与所得者が、1年間の寄附先が5自治体以内であれば確定申告を行うことなく税額控除を受けることができる制度です。
 ※実質2千円で寄附可能な上限額は給与及び他の控除額等によって異なります。基金パンフレットやHPに掲載している目安表等をご確認ください。
 ※住民税の控除額については、寄附をした翌年の6月頃に勤務先から、もしくはお住まいの市区町村から郵送される「住民税決定通知書」でご確認いただけます。

ふるさと納税制度を活用した寄附の払込方法について

払込方法は大きく分けて「①クレジットカード・コンビニ納付・インターネットバンキング」「②払込書」の2つがあります。それぞれの寄附の流れは以下の図の通りです。



※【①クレジットカード・コンビニ納付・インターネットバンキング】の場合は、インターネットでの手続きが必要となります。申込書に連絡の取れるメールアドレスの記載をお願いします。
 ※コンビニ納付は寄附額が5万円未満の場合のみ利用可能です。
 ※インターネットバンキングはPay-easy対応銀行のみで利用可能です。

詳しくは [未来への飛躍基金](#) [検索](#)

奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL：0744-23-9973（直通） E-mail：hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

奈良県立医科大学 奈良健康フェア 2020 をWeb開催しています

開催期間 2020年9月15日(火)～2021年9月14日(火)

Web開催 URL: <https://nara-kenko-fair.com/>

奈良健康フェアは奈良県立医科大学の主催で、お子さんからお年寄りまで、家族みんなが健康でハッピーになれるような情報をお届けすることを目的に2016年から実施しています。例年、イオンモールにて開催しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を考慮し、本年はWebでの開催とさせていただきます。



感染症対策の他、大人の健康情報、子ども達の健康教室、奈良医大関連の情報など満載です。本企画のテーマである“新時代の生き方～健康にチャレンジ”の知識と実践により、皆さんのこころとからだの健康の一助となればと思います。どうぞお楽しみください。

9.3 高度医療技術修得者の認定証 交付式について

本院では、平成22年6月から医療機器の多様化・高度化に対応できる、より専門性の高い臨床工学技士「高度医療技術修得者」を、全国に先駆けて当院独自で養成しています。また、平成30年4月からは、本学大学院看護学科研究科修士課程に「周麻酔期看護師教育課程」を設置し「周麻酔期看護業務に関する高度医療技術修得者」を養成しています。

今回、臨床工学技士3名及び看護師2名がそれぞれの課程を修了し、高度医療技術修得者養成認定審査委員会の認定審査を経て、9月3日に吉川病院長から認定証が交付されました。

これにより総勢11名の臨床工学技士と2名の看護師が、高度医療技術修得者として麻酔科医と共に周術期領域で活躍し、医師の働き方改革におけるタスクシフトの推進に貢献しています。

高度医療技術修得者認定証交付者



臨床工学技士
(麻酔アシスタント業務)

令和元年度

服部 幹太

令和2年度

木場 康介 榎野 将太



看護師
(周麻酔期看護業務)

令和2年度

佐藤 真理子

岡本 直子

10.8

奈良臨床漢方医学セミナー (泌尿器科領域編) を開催しました

今回のセミナーは、新型コロナウイルス感染症対策のため、ZOOMでのウェビナー形式と、サテライト会場での会場参加形式で行いました。

本学泌尿器科学 藤本教授の司会で、信州大学医学部 泌尿器科学教室 皆川講師に「泌尿器科の漢方治療～伝統医療を用いた新戦略～」というテーマで講演いただきました。

がん患者の全身倦怠感への漢方の効果について、クイズも交えながら講演され、参加者は興味深く聞いておられました。

当日はWebだけでなく、会場にも多くの方が参加されました。

今後も、新しい形式でのセミナーを開催したいと考えております。多くの方のご参加をお待ちしております。



泌尿器科学 藤本教授

リサーチクラークシップから 論文掲載へ

医学科4年 水谷 彩乃

2018年度リサーチクラークシップで産婦人科学教室において参加させていただきました。「GSK-3β mediates the effects of HNF-1β overexpression in ovarian clear cell carcinoma」と題し、「Experimental and therapeutic medicine 第20巻5号122」に共著者として掲載されました。研究の方法や手技など何も分からないところからの出発でしたが、温かく丁寧なご指導により、リサーチクラークシップを無事に終了し、その後も研究に参加することができました。今回のリサーチクラークシップを通して研究に必要な手技などに加え、医学研究の面白さや同時に大変さも感じることができました。ご指導いただきました河原直紀先生をはじめ産婦人科学教室の先生方に厚く御礼申し上げます。

10.17
11.14 **MBT ウエルシア薬局
健康ステーションを開催しました**

ウエルシア薬局 檀原市中曾司店「ウエルカフェ」にて本学 MBT 研究所が健康ステーションを開催しました。(毎月第二土曜日)

梅田副所長と MBT 研究所スタッフが、様々な機器でカラダ・肌の状態などを測定、日頃から健康づくりを意識し生涯現役で自分らしく健康的な暮らしができるよう一人ひとりにあった生活アドバイス等を提供しました。

予約制で毎回 15 名程度の参加者からは、健康意識が高まったと大変好評でした。

MBT は今後も健康とまちづくりをテーマに地域コミュニティを深め、積極的に展開を図っていきます。



健康アドバイスの様子

10.28 **MBT コロナ克服キャンペーンを
全国へ展開**

MBT の新型コロナウイルスへの対応については、柿渋による報道発表以降、新型コロナウイルス不活化の問い合わせが多く、順次、契約締結のうえ不活化試験等の実施を進めています。

また、MBT コロナ対策・企業相談としては、東大寺・修二会(お水取り)、奈良餅飯殿(もちいどの) 商店街、大和ロイヤルホテル、吉野町などでの新型コロナ対策について、MBT 研究所の笠原 敬病院教授(感染症センター長)が、指導・助言を行った成果の報告を行いました。

今後、奈良医大 MBT コンソーシアムとで連携を行い、MBT コロナ克服キャンペーンを、奈良県から全国へ展開していきます。



コロナ克服キャンペーンの全国展開を議論

10.29 **V-iCliniX 講座
運営委員会を開催しました**

中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して設置した寄附講座「V-iCliniX 講座(生体 5 次元インフォマティクス国際統合ハブ)」の運営委員会を開催しました。

今年度 2 回目となる運営委員会は、前回に続いてオンラインを活用した開催となりました。

佐藤教授から今年度の研究の進捗状況について、「新型コロナウイルス関係で研究の進捗に影響がありましたが、秋から臨床研究も始めることができています」報告があり、来年度に向けてさらに意欲を高めている様子がうかがえました。



委員会の様子

11.8
~ 22
12.6
~ 20 **国土交通省のプロジェクトに
MBT 研究所が参加しました**

令和 2 年度の国土交通省の先導的官民連携支援事業に檀原市が採択され、11 月から開始した都市公園における医学分野と連携した新たな利活用可能性調査に、MBT 研究所が参加しました。

このプロジェクトは、医療健康分野との連携による新たな公園利活用について、官民連携(PPP)手法活用による実現可能性を検討するものです。昨今の新型コロナウイルス感染予防対策を鑑み、密にならずに安心・安全・健康に公園施設を住民が利用できるあり方についての実証を檀原市が行い、MBT 研究所が知見を提供し、調査を支援しています。

11 月には新沢千塚古墳群公園において、12 月には檀原運動公園においてそれぞれ調査を行い、健康増進という付加価値を付け、密を避けながら市民が利用できる新たな公園のあり方を提言する予定です。



MBT 研究所による住民への説明

11.5 高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。今回は、11月5日に「分子生物学実験の基礎～制限酵素地図を作ってみよう～」をテーマにして、畝傍高校の生徒21名が参加しました。

(生徒感想文一部抜粋)

高校では使うことのできない器具を使わせていただき、貴重な体験をさせていただきました。

大学での研究や実験などは、自分の力で開拓していく部分も多いように感じ、高校での勉強は大学で興味のあることを学ぶための基礎知識を身につけるものだとは再認識しました。今回の講座に参加して、勉強に対するやる気が出てきました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

2年女子生徒

分子生物学の実習をさせていただき、昨年からは奈良県立医科大学との高大連携講座を楽しみにしていました。初めて見る器具が多く、戸惑いましたが、永淵先生が1つ1つ丁寧に使い方を説明してくださり、自信を持って、正確に使用することができました。マイクロピペット使用時や電気泳動時に出てきた疑問を先生方に尋ねると、とても優しく、そして詳しく答えてください、嬉しかったです。

この実習は、私にとってとても難しく感じましたが、終了予定時刻を過ぎても熱心に私の質問に答えてくださったので、理解することができました。普段学校で教科書とらめっこしてばかりですが、今回のように、実際にDNAがあるのだと目で見ただけにより、理解が深まりました。

奈良県立医科大学とはご縁があり、幼い頃から奈良県立医科大学医学部医学科に行きたいと考えています。今回の経験を忘れずに、自分自身を奮い立たし、また先生方の授業を受けられるように頑張ります。本当にありがとうございました。

2年女子生徒



実習終了後の集合写真

11.9 キャンパスミーティングを開催しました

2020年度キャンパスミーティング(学生と教職員との懇談会)が11月9日に開催されました。

例年、医学科・看護学科の学生の代表者と医学部長、看護学部長をはじめ各教育分野の教育部長、広く教育、学生支援に関わってくださる学生支援委員会、教育開発センターの先生方、教育支援課、図書館職員が集まり、授業や学生生活などについて共に考え、対話する貴重な機会となっています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、対面式ではなく座席の間隔をおいたスクール形式での懇談会となりましたが、いくつかのテーマに沿って終始和やかな雰囲気の中、話し合いを進めることができました。コロナ禍でのオンライン授業、学生生活などに関する学生からの率直な意見・要望・提案は、今後の教育環境等を整備していく上で参考になるものが多く、大変有意義な時間となりました。



キャンパスミーティングの様子

11.13 札幌市議会がMBTの活動状況を視察に来られました

医学の正しい知識を産業創生、さらには、その成果をまちづくりにも発展させるMBT研究の視察のため、北海道の札幌市議会より議員団が来学されました。

MBT研究所長である細井理事長がMBTの理念を説明するとともに、MBTの提唱する感染ルート遮断による自分で十分な感染症対策のできる環境づくりを重視した新型コロナウイルス対策を紹介しました。

また、梅田副所長からは北海道沼田町での健康モニター実証実験の成果やそれを活用した新しい健康サービス実用化への展望が語られました。

議員の方々からも多くの質問が飛び、感染症対策や医学を通じた地域活性化について活発な意見交換がなされました。



札幌市議員団

11.16

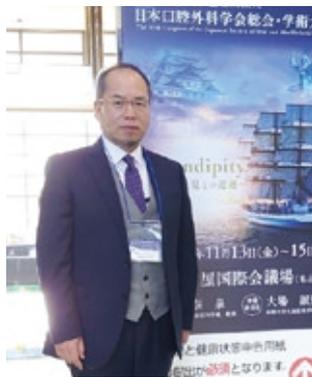
公益社団法人 日本口腔外科学会 の理事長に就任いたしました

口腔外科学 教授 桐田 忠昭

第 65 回日本口腔外科学会総会・学術大会の理事会、総会において、(公社)日本口腔外科学会の第 14 代新理事長に選出されました。

(公社)日本口腔外科学会は、1933 年に「口腔外科集団会」として発足したのが最初で、約 90 年の歴史を誇り、会員数も現在 11,000 名を有する最大の学会です。その学会の舵取り役として、運営に携わらせていただくことができることは大変光栄であるとともにその責任の重さを強く感じています。

奈良医大に奉職させていただき 30 有余年、これからも奈良医大の存在感や存在価値を少しでも高め、一目置かれる大学ならびに教室となるよう努力させていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



11.20

MBT によるコロナ無料相談で 医学的知識を社会に還元を !!

MBT の新型コロナウイルスへの対応として、3 密回避より本質的な「3 感染ルート(接触・飛沫・エアロゾル)遮断」の必要性を軸に企業等への無料相談を実施しています。

東大寺、奈良市餅飯殿(もちいどの) 商店街・奈良ホテルでの新型コロナウイルス対策訪問指導からの相談対応などの成果報告が行われるとともに、それらの活動から得た知識を社会により効果的に還元していくためにはどうすべきかという点に焦点を当てた話し合いが展開されました。

今後も MBT コロナ克服キャンペーンとして、医学的知識に基づく正しい感染症対策を広めるための取り組みを行っていきます。



MBT コロナ 3 感染ルート遮断の必要性を論議

11.25

お茶によるコロナ不活化効果を 発表しました

本学は、新しく新型コロナウイルスの不活化効果について、お茶の種類や製品により不活化能が異なることを実験的に明らかにし、奈良医大で、微生物感染症学 矢野寿一教授及び細井 MBT 研究所所長が出席し、記者発表を行いました。

矢野教授から、研究成果の概要説明があり、細井理事長からお茶がコロナ不活化に有用となれば会食時における感染抑制の可能性について述べました。

当日は、11 社のマスコミの取材を受け、テレビ・新聞だけでなくネットニュースなどでも発信され、様々な問い合わせが来ており、身近なお茶の反響は大きく、研究成果の今後が楽しみとなり、新たな共同研究等に発展させていきます。

今後も MBT 研究所では、新たな研究成果を全国に発信します。



お茶の効果を PR する細井 MBT 所長



研究室にて



記者会見の様子

11.26

MBTが、大学機関別認証評価の特色あるテーマに取り上げられました

大学機関別認証評価とは、その教育研究水準の向上のため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究等の状況について、7年以内ごとに義務付けられた外部評価制度です。その中で、特色ある教育研究の取り組みとしてMBTが注目されました。

遠隔会議システムを活用し、評価委員の方々へ向けてこれまでの取り組みについて、MBT研究所の細井所長や梅田副所長が発表したのち、学部生の齋藤正一郎さんや大学院生の大井川仁美さんも加わりMBTの取り組みについて忌憚ない意見交換を行いました。

医学分野での産学官連携はまだ実例が少ないこともあり、大学・教育関係者でもある評価委員の方々からは今後のMBTの展開に大きな期待が寄せられました。



討論の様子

11.27

市民のための省エネ・節電セミナーにてMBTの講演をしました

奈良市保健所・教育総合センター「はぐくみセンター」において、MBT研究所 梅田智広副所長が「with コロナの暮らしとまちづくり」と題して講演を行いました。

セミナーでは、奈良県立医科大学初のベンチャー企業「MBT Link」の携帯端末を利用して、「MBT Link MAP」の地図上で各個人のバイタル情報をリアルタイムに表示するなどMBTの研究内容を紹介しました。

また、今後は携帯端末なしでも、外部カメラがあれば動画撮影した動作のAI分析によって、身体の異常検出をするシステムを現在開発中であるとのお話もあり、参加者からは、新型コロナウイルス感染症流行の中、各個人のリモートでの健康管理が、益々重要になってくるなど興味深い質問も多くありました。MBT研究所では、企業力も結集し今後の展開も見据え果敢に挑戦していきます。



梅田副所長の講演

11.27

アーバンデザインスクールにてMBTの講演をしました

滋賀県草津市で開催された、令和2年度アーバンデザインスクール「これからの健幸都市に向けて」第2回において、MBT（医学を基礎とするまちづくり）について、MBT研究所の遊佐講師が講演しました。

このスクールは、UDCBK（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ）が主催し、市民、行政職員、専門家等が分け隔てなく参加できる連続スクールで、新型コロナウイルス感染症をきっかけとし新時代において、まちづくりの方向性を多角的視点から考えるものです。

当日は、立命館大学理工学部の阿部俊彦准教授コーディネートののもと、遊佐講師が「医学・健康をテーマに講演し、活発な議論が展開されました。

滋賀県草津市と奈良県橿原市は、大阪からの移動距離や近隣に医科大学を有するなど共通点が多く、双方のまちづくりで参考になることも多く、MBTを含め今後の情報共有の有用性が示された一方で、医療・介護の需要のピークは異なることから、それらの対応については異なる戦略が必要であることも確認しました。



講演会の様子

11.28

西日本医学生学術フォーラム2020に参加しました

医学科6年 坂口 義彦

この度、11月28日に開催されました西日本医学生学術フォーラム2020に口演発表者として参加しました。このフォーラム初のオンライン開催になりましたが、いつも以上の参加者で活発な質疑応答が行われていました。発表内容は臨時的なものから基礎的なものまで多岐にわたり、他大学の研究の様子を知る貴重な機会になりました。また、特別講演では医学部卒で博士に進学した先輩のお話など様々な刺激をいただきました。これらの刺激をまた、普段の研究に活かせればと思います。



Campus News

11.30 ~ 12.1 北海道更別村でMBT フォローアップ会を行いました

北海道更別村において、ICT を活用した健康・見守りサポート事業に取り組む健康モニターの実証実験を4ヶ月間にわたり行いました。この実験は、参加した村民の食事や睡眠、日々の生活行動についてのデータをスマートフォンを利用して送信し、そのデータをもとに健康状態を数値化し、健康状況を把握するものです。

MBT 研究所の梅田副所長が担当し、集計された健康状況をみて、実験の参加者は「自分の健康を気に付けるようになった」「仲間がいて先生から励ましの声掛けがあったので、三日坊主にならなかった」と感想がありました。

今後も MBT 健康・見守りサポート事業の取り組みを全国に展開していきます。



会場の様子

12.1 医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

12月1日に、医学科4年生100名の Student Doctor 認定証・白衣授与式が執り行われ、その模様はオンラインで配信を行い、保護者のみなさまに視聴していただきました。

細井学長から医師としての将来展望について講話をいただき、代表学生4名に「Student Doctor 認定証」が手渡されました。

続いて、学長・医学部長・附属病院長・同窓会長からそれぞれに白衣が授与され、学生は真新しい白衣に袖を通したのち、吉川附属病院長からの訓示、國分同窓会長から激励のお言葉をいただきました。

最後に、学生を代表して長宗 輝都さんが、これから始まる臨床実習で、真摯に勉学に取り組み、患者さんから信頼される医師になることを誓いました。



2020年度 Student Doctor 認定証・白衣授与式

12.7 協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に令和元年度より共同での大型研究資金の獲得を目指す共同研究を助成する協定大学共同研究助成事業を創設しました。

令和元年度に採択された課題について、下記のとおり助成事業終了による成果報告会を開催しました。

「心筋疾患に対するAIを用いた自動病理診断システムと非侵襲的検査法からの病理像予測システムの開発」

循環器内科学 学内講師 尾上 健児

「1細胞遺伝子発現と細胞形態の深層学習による統合解析」

発生・再生医学 教授 栗本 一基

当日は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため Web 形式と人数を制限しての会場参加形式で行いました。

積極的に質問される先生方もおられ興味の高さがうかがわれました。

令和2年度採択の共同研究助成事業についても、今後の成果発表が楽しみな展開となりました。



循環器内科学 尾上学内講師



発生・再生医学 栗本教授

12.17 今井町におけるMBT健康教室を再開しました

奈良医大 MBT 研究所と橿原市今井町が連携して開催している健康教室は、新型コロナ対策に配慮し、参加人数を半分に制限し、2回に分けて行う、ひとりひとりの距離を保つ、開始前後でアルコール消毒を徹底する、定期的な換気を行うなどの3感染ルート遮断を講じた上で再開しました。

参加者の方々からは、「以前、健康教室に参加して、体が動くようになったが、コロナ禍における運動不足で、体が再び元に戻ってしまいました。再開を心待ちにしていました。」とありがたい言葉を頂いてのスタートとなりました。

今後は、スマホを用いて自宅でも同様の運動ができるようなしくみを整えることで、再び活動中止になった場合や、閉じこもりがちな独居高齢者でも参加できるようしくみに発展させたいと考えています。また、現在はモデル的に今井町で開催していますが、将来的には橿原市の計画にも位置づけるなどして、広く展開していくことをめざします。



健康教室の様子

12.18

MBT ビジネス活性化 ウェブセミナーを開催しました

MBT 研究所・MBT コンソーシアム・損害保険ジャパン株式会社・株式会社南都銀行の4社共同で奈良県コンベンションセンターにおいてビジネス活性化 Web セミナーを開催しました。

今回のセミナーは、会場・Web 視聴合わせて129名が参加する大規模なものとなりました。

細井理事長・学長からは、新型コロナウイルス流行により社会情勢が激変した今だからこそ MBT による医療のための産業イノベーションが必須であると熱弁され、会場を実践の場として3感染ルート遮断の方法や MBT コロナ対策の数々や進行中の複数企業との共同開発について紹介しました。



熱く語る細井理事長・学長

12.21

MBT 特命教授の特別講演会を開催しました

本学 MBT 特命教授であるダイソー株式会社の矢野博丈会長による特別講演会を開催しました。MBT 特命教授の称号は、産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められた方に授与しているものです。

今回、矢野 MBT 特命教授は、これまでの自身の経験を「生きる」と題して、MBT へ力強い激励を発信いたしました。

講演では、新型コロナウイルスの流行に端を発する厳しい社会情勢について、ご自身の波乱万丈な人生と重ねながら、困難な状況下でも周囲への感謝を忘れずに地道な努力を積み重ね続けることの大切さを語られました。



矢野 MBT 特命教授

1.22

東大寺から MBT コロナ対策 Web 座談会を中継しました

MBT コロナ克服キャンペーンの取り組みの一つとして、MBT 研究所と MBT コンソーシアムと共同で、各界の著名人との座談会を企画し、その1回目は、宗教界から華厳宗管長・第223世東大寺別当の狭川普文(さがわふもん)師をお迎えし、「1270年続く東大寺修二会の歴史から見る新型コロナ感染症を語る」を東大寺の特別応接室で開催しました。

座談会は、MBT 研究所 細井所長が聞き手として進行し、狭川普文師が東大寺の創建や修二会(二月堂のお水取り)にまつわる歴史を、MBT 研究所 笠原病院教授(感染症センター長)が、感染症にまつわる医学的解説や感染症対策を熱心に語っていただきました。

この中で、東大寺の歴史から学ぶ知恵と奈良医大のもつ現代医学の知識を結集して、コロナ克服に取り組むことの重要性を確認しました。

この取り組みは奈良医大から広く YouTube でのライブとオンデマンドで配信しました。

座談会終了後の報道陣からの取材も活発な意見交換となりました。



報道陣による取材の様子

受賞者報告

Winner Report

6.13

「第17回森村豊明会奨励賞」を受賞しました

微生物感染症学 准教授 中野 竜一

この度、第17回森村豊明会奨励賞を受賞しました。感染症をはじめとする各種重要疾患の原因・予防・治療法に関する学術賞であり、著名な先生方が受賞されたこの賞を自身も授かり大変光栄に存じます。受賞内容は「 β -ラクタマーゼ産生グラム陰性桿菌の耐性機構解明ならびに迅速検出法開発」についてです。本研究に携わって頂いた先生方のご尽力のお陰であり、深く感謝申し上げます。本受賞を励みに、耐性菌感染症の治療・予防に貢献すべく精力的に研究に取り組んでいきたいと思っております。



Winner Report

8.24 第45回日本脳卒中学会学術集会で学会賞優秀口演賞を受賞しました

脳神経内科学 診療助教 塩田 智

8月24日、Web開催となりました第45回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE2020) で、当科診療助教 (大学院生) の塩田 智先生が見事、学会賞優秀口演賞 (基礎研究部門) を受賞しました。テーマは「大脳オルガノイドを用いた低酸素培養と神経発生・再生・虚血モデル」で、当科と本学未来基礎医学講座との共同研究による画期的な研究成果です。本年の同部門の受賞は唯一人で、歴史ある学会の栄誉ある賞に選ばれ当科としても大変光栄です。この受賞を糧として今後の更なる研究の発展に期待いたします。



8.28 日本肝臓学会研究奨励賞を受賞しました

消化器内科学 助教 澤田 保彦

この度、2020年度日本肝臓学会研究奨励賞を受賞しました。受賞論文は「Combining probiotics and an angiotensin-II type 1 receptor blocker has beneficial effects on hepatic fibrogenesis in a rat model of nonalcoholic steatohepatitis」であり、ラット Nonalcoholic steatohepatitis (NASH) モデルに対し probiotics と angiotensin-II type 1 receptor blocker (ARB) を併用投与することにより、強い肝線維化抑制効果を示し、NASHの病態において腸肝相関の重要性を再認識しました。

今回の受賞を励みとして、今後も臨床および研究に邁進していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



9.4 日本動物学会 茗原真路子 研究助成を受賞しました

生物学 講師 小林 千余子

この度、『淡水産マミズクラゲの性決定及び生物伝播の謎に迫る』をテーマとして、公益社団法人日本動物学会から茗原真路子研究助成金を頂き、第91回大会で受賞者講演をさせていただきました。オンラインでの開催でしたが、一般公開され、チャットを用いて一般の方から質問を受けたり、マミズクラゲ発生情報を頂いたり、普段とは異なる経験をさせていただきました。本受賞を励みに、今後も研究を進めて行く所存です。



9.12 第49回 日本リウマチの外科学会で若手奨励賞 優秀賞を受賞しました

整形外科 医員 西村 碩人
(現：阪奈中央病院勤務)

9月11、12日に完全オンラインで開催された第49回日本リウマチの外科学会 (The 49th Annual Meeting of Japan Society for Rheumatism and Joint Surgery) において【関節リウマチ前足部変形に対する外反母趾矯正骨切り術のX線学的検討】が、若手奨励賞 優秀賞を受賞いたしました。関節リウマチ患者における外反母趾変形の術後再発に対するX線学的因子を検討し報告いたしました。今後もさらなる基礎・臨床研究に励む所存です。本研究にあたり御指導賜りました、田中康仁教授はじめ研究にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



9.29

第116回日本精神神経学会学術総会にて国際学会発表賞を受賞しました

精神医学 講師 紀本 創兵

この度、9月28日から30日に開催されました第116回日本精神神経学会学術総会において、国際学会発表賞(シンポジウム組織部門)をいただくことができました。本賞は、同学会が国際学会での優れた発表活動を、シンポジウム組織単位で表彰する制度であります。私は2019年8月にポルトガルで開催されました第19回世界精神医学会(WPA)において、「Abnormalities of Prefrontal Cortex during Development Relevant to Schizophrenia and Autism」という演題にてシンポジウムを組織し、米国アルベルト・アインシュタイン医学校(Dr. Yamauchi)やマウントサイナイ医科大学(Dr. Yamamuro)などの先生方と、精神疾患の治療法の創発に向けて討論いたしました。ご指導賜りました岸本教授、登壇いただいた諸先生方に厚く御礼申し上げます。



10.8

第47回日本肩関節学会で第33回高岸直人賞を受賞しました

スポーツ医学 講師 井上 和也

この度、10月に会場参加とライブ配信を併用するハイブリッド開催で行われた、第47回日本肩関節学会において、第33回高岸直人賞を受賞いたしました。受賞内容は「Bankart修復術後の関節窩骨吸収 -有限要素法を用いた検討-」です。本受賞にあたり、田中康仁教授をはじめ、ご指導いただきました先生方に深謝いたします。本受賞を励みにし、今後も日々精進してまいります。

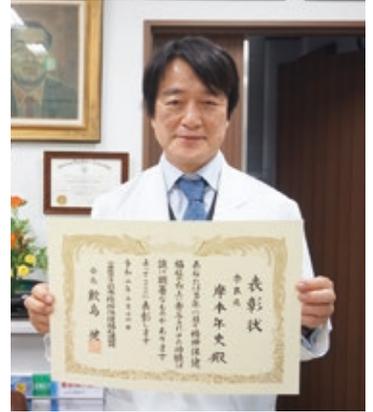


10.16

日本精神保健福祉連盟会長表彰

精神医学 教授 岸本 年史

日本精神保健福祉連盟会長表彰を10月16日に受け、後日奈良県精神保健福祉協会事務局を通じて表彰状と記念品を頂きました。山口県で行われる予定であった第68回精神保健福祉大会が順延となり、医局で頂戴しました。この大会は昭和28年よりノーマライゼーションの理念の下、現在まで引き継がれ、長年にわたり精神保健福祉事業に功労があったとして受賞したものです。奈良県の精神保健福祉に貢献したことが認められ嬉しい限りです。



10.17

第27回日本排尿機能学会 学会賞(臨床研究)を受賞しました

泌尿器科学 講師 島本 一匡

ヒトを含めた動物で、古くから膀胱で水、電解質、尿素などが吸収されることが研究されてきました。哺乳類では、冬眠中のワムバが全く飲食することなく生命を維持する機構のひとつとして尿を吸収することが分かっています。ヒトにおける生理的意義は不明であったため、研究は進んでいませんでした。本研究で、膀胱での吸収能は夜間に排尿することなく睡眠を維持する機構のひとつであることを証明しました。高齢者のQOLを大きく障害する夜間頻尿治療を展開させる契機となることを期待します。



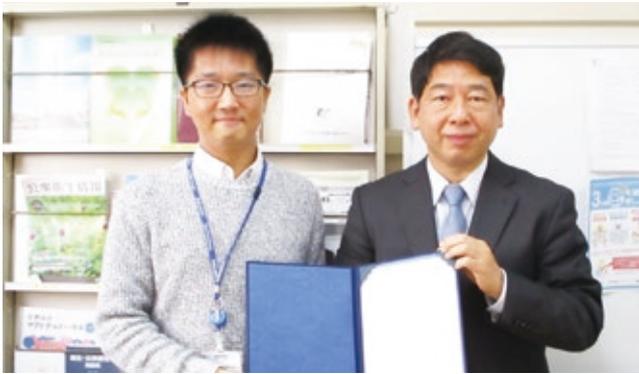
Winner Report

10.21

第79回日本公衆衛生学会総会で
優秀口演賞を受賞しました

公衆衛生学 助教 西岡 祐一（糖尿病・内分泌内科）

10月20日から開催されました第79回日本公衆衛生学会総会2020で優秀口演賞を受賞しました。演題名は「特定健康診査の糖尿病薬処方に関する質問項目のバリデーション研究」です。自己申告による処方とレセプトの処方とどの程度一致するのか定量的に示しました。今後とも大規模データベースを用いた研究を発信していきたいと考えております。研究実施にあたりご指導いただきました野田准教授、今村教授をはじめ公衆衛生学講座事務室の皆様、関係者各位に御礼申し上げます。

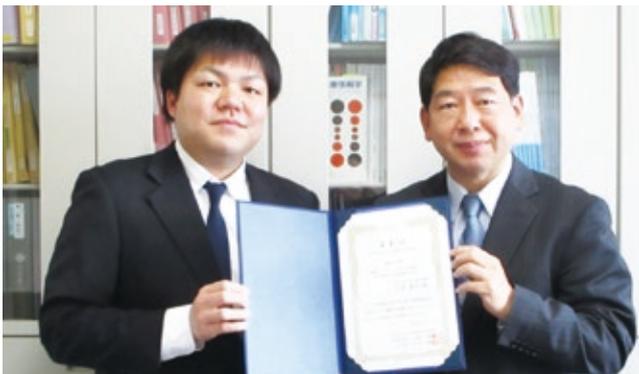


10.21

第79回日本公衆衛生学会総会で
優秀口演賞を受賞しました

医学研究科博士課程 公衆衛生学専攻
(法人企画部 研究推進課 主査) 中西 康裕

10月にオンライン開催された日本公衆衛生学会総会において、優秀口演賞を受賞しました。我々の研究チームは、奈良県在住の75～109歳の患者を対象に、死亡前1年間に発生する医療費に注目して分析を行いました。百寿者(100歳以上の長寿者)は死亡に至る前の重篤な期間が他の年齢層と比較してより短い傾向にあることが指摘されており、本研究ではそうした現象を医療費の面から検証しました。ご指導頂いた今村知明教授、赤羽学研究部長(国立保健医療科学院)を始め、共著者の皆様、事務の皆様にご心より御礼申し上げます。



10.22

第79回日本公衆衛生学会総会で
「口演賞」を受賞しました

公衆衛生学 准教授 野田 龍也

私たちは、レセプトの全国データベース(NDB)を用い、今まで不詳であった「現在投薬治療中のHIV/AIDS患者数」を初めて算出しました。HIV感染症対策の基礎となる数値であり、厚生労働省のエイズ動向委員会に公式に報告されました。

今回の公衆衛生学会(10月20～22日開催)では優秀口演賞・口演賞17演題のうち3演題が当教室から選ばれ、全体でも5演題がデータベースを用いた研究でした。「自分の足でデータを集める」研究を経験しない研究者が増えゆく現状はあまり望ましいことではないと感じておりますが、データベース研究自体は公衆衛生・疫学の新しい流れとして定着したと感じており、その発展に微力を尽くしたいと考えております。



10.23

日本輸血細胞治療学会より
第19回 村上記念賞を受賞しました

名誉教授 藤村 吉博

令和2年度、日本輸血細胞治療学会より第19回村上記念賞を本学輸血部前教授で、現名誉教授の藤村吉博が受賞しました。本賞は本邦の輸血医学の発展に多大な功績を残された故村上省三先生を記念して創設された権威あるものです。

今回の受賞理由は「von Willebrand因子(VWF)研究で導かれたADAMTS13研究を介して、血液難病の血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)の病態解明に貢献した」というものです。コロナ禍で、Web発表と授賞式は同学会秋季シンポジウム(会長:加藤栄史 東海大学輸血部教授)が開催された名古屋で行われました。



賞状と記念品の贈呈式(日本輸血細胞治療学会理事長の松下正 名大輸血部教授(向かって左)と藤村名誉教授)

11.1

令和2年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました

精神医学 准教授 牧之段 学

11月1日に日本医師会館で開催された日本医師会設立73周年記念式典並びに医学大会において、医学研究奨励賞を受賞しました。日本医師会医学研究奨励賞は基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ、医学上将来性に富む研究を行っているものに授与される賞です。本受賞にあたりご指導頂いた岸本教授ならびに多くの先生方に厚く御礼申し上げます。引き続き基礎と臨床をつなぐ橋渡し研究を進め、社会実装に至れるよう邁進いたします。



11.6

第68回日本化学療法学会西日本支部総会学生セッションで優秀賞を受賞しました

微生物感染症学 医学科4年 渡邊 真子

11月6日に行われた第68回日本化学療法学会西日本支部総会の学生セッションにて「Sed-1 β -ラクタマーゼ産生 *Citrobacter sedlakii* の調節遺伝子による誘導機構の解明」という演題で発表し、優秀賞を受賞しました。この賞は学部生と大学院生のセッションの中で優秀な発表を表彰するものです。今回の研究では報告例の少ない耐性菌の耐性機構について検討しました。受賞にあたりご指導頂きました矢野教授と中野准教授をはじめ、微生物感染症学の先生方と関係者の方々に深く感謝致します。



11.6

第68回日本化学療法学会西日本支部総会学生セッションで優秀賞を受賞しました

微生物感染症学 医学科4年 斎藤 開

第68回日本化学療法学会西日本支部総会(11月5日~7日に開催)の学生セッションにて、優秀賞を受賞しました。受賞演題は、「Nmca産生 *Enterobacter ludwigii* のゲノム構造解析および高度耐性化機構の解明」です。本研究は临床上重要なカルバペネム耐性菌の耐性機構を遺伝学的に明らかにするというものです。Web参加での発表であり、難しい面もありましたが、無事に発表を行うことができました。本発表にあたりご指導を賜りました矢野教授、中野准教授をはじめ、微生物感染症学講座の皆様方にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。



11.9

令和2年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました

この度、下記の方々が令和2年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

これは、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に授与されています。

薬剤部 係長 大塩 敦子
中央臨床検査部 係長 山本 さよみ

Winner Report

11.20

第10回阿曾賞 (日本泌尿器内視鏡学会)を受賞しました

泌尿器科学 学内講師 三宅 牧人

このたび、日本泌尿器内視鏡学会『阿曾賞』を受賞いたしました。本賞は泌尿器内視鏡学 (Endourology) の発展を目標として 2011 年に設立された、本学会の学会賞です。テーマは「ダイナミック造影 MRI 画像と蛍光膀胱鏡画像を融合した効率的な経尿道的膀胱腫瘍切除術の実現へ向けた取り組み」です。膀胱癌の経尿道的内視鏡手術 (TURBT) における光力学診断技術 (PDD) の発達は、これまで見逃されていた平坦な上皮内癌病変に対する診断能を格段に上昇させました。一方で、それによる膀胱組織の過剰切除や手術時間の延長など課題も多く残ります。今回、手術前造影 MRI 検査の情報を術中光力学診断の所見に融合するといった新規技術への取り組みを報告しました。本受賞は、当科藤本清秀教授、放射線科丸上永晃先生はじめ、多くの方のご指導・ご支援を賜りました結果と考えております。この場をお借りして、皆様方に厚く御礼申し上げます。



11.21

第5回トランスポーター研究会関東部会で優秀ポスター賞を受賞しました

医学科 6年 坂口 義彦

この度、11月21日にオンラインで開催されました第5回トランスポーター研究会関東部会(第51回日本消化吸収学会総会併催)において、演題名「1細胞遺伝子発現データによるヒト腎尿酸輸送モデルの高解像度化」で発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。発表した研究成果は、本学の未来基礎医学の森英一朗先生と生体分子不均衡制御学共同研究講座の永森收志先生を始め、多くの先生や大学院生の方との出会いから始まり、それぞれの先生方から様々な御指導を頂きました。感謝申し上げます。また、学会での発表に際し、他大学の先生方から発表内容について貴重なコメントを頂きました。今後も人との縁を大切にしつつ、研究活動に励んで行きたいです。



11.25

第31回日本臨床口腔病理学会の優秀発表賞を受賞しました

分子病理学 講師 笹平 智則

このたび第31回日本臨床口腔病理学会の優秀発表賞を受賞いたしました。本年度はWeb開催となりましたが、発表内容は口腔癌における新規分泌タンパクであるSRPX2のリンパ節転移、予後、白金製剤に対する抗癌剤耐性の獲得、血管・リンパ管新生への関与についてです。今回の受賞を励みに今後も頑張っていこうと思っております。最後になりますが、週に10数時間しか大学にいない教室長に代わり、日々ご指導いただいている口腔外科学講座の桐田忠昭教授に心から感謝申し上げます。本受賞は桐田先生の教えの賜物です。



11.26

第22回日本臨床神経生理学会優秀論文賞を受賞いたしました

麻酔科学(中央手術部) 助教 高谷 恒範

このたび、「術中神経モニタリングにおけるチェックリストの運用と安全管理の現状について」の論文が、第22回日本臨床神経生理学会 優秀論文賞を受賞いたしました。本研究では、当院が作成したノンテクニカルスキルとしてのチェックリストの有用性を評価し報告致しました。

今後も、さらに研究に励む所存です。本研究にあたり多大なるご指導を賜りました川口昌彦教授、中瀬裕之教授をはじめ、ご協力頂きました皆様厚く御礼申し上げます。



11.26

奈良県警察本部長より感謝状を贈呈されました

法医学 教授 粕田 承吾

11月26日、奈良県警察本部長より感謝状が贈呈されました。平成20年に本学に着任以来、約600体の法医学解剖を執刀し、犯罪捜査に貢献したことが評価されたものです。法医学解剖による事件性の判断、正確な死因の究明は、法治国家に必要な不可欠なものです。今後も奈良県の秩序の維持と公衆衛生の向上のために、精度の高い法医学解剖を続けていきます。



12.16

令和2年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

12月16日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、本学から下記の3名の先生方が令和2年度奈良県医師会学術奨励賞を受賞しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために設けられ、有意義な研究成果をあげ、後進の指導にも熱意を有する者に与えられる賞です。毎年6月頃に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。

(受賞者) 輸血部 診療助教 酒井 和哉
脳神経内科学 助教 江浦 信之
産婦人科学 助教 山田 有紀



左より山田助教、酒井診療助教、江浦助教、高濱診療講師(近畿大学奈良病院)

12.23

第13回日本泌尿器科学会ヤングリサーチグラント受賞記念講演

泌尿器科学 学内講師 三宅 牧人

第108回日本泌尿器科学会総会において、『第13回ヤングリサーチグラント受賞記念講演』を行ってきました。研究課題は、「尿路上皮癌に対する抗癌薬物治療に伴う骨格筋障害の機序解明と予防介入」です。近年の癌治療においては、制癌効果だけでなく、身体機能の温存、精神面の安定そしてQOLの維持の重要性がますます注目されています。今回、膀胱癌術前化学療法中に生じる骨格筋障害の分子機序を明らかにし、それに対する補助介入手法の可能性を探索いたしました。本受賞は、当科藤本清秀教授はじめ、多くの方のご指導・ご支援を賜りました結果と考えております。この場をお借りして、皆様方に厚く御礼申し上げます。



令和2年度 外部資金獲得状況

134件 374,711,272円(間接経費を含む)(令和2年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
認知症政策研究事業	老年看護学	教授	澤見 一枝	外出が困難な認知症高齢者へのAIを用いた介入手法の開発と、遠隔AI操作によるコミュニティづくりの研究
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病の医療体制構築に資する自治体が利活用可能な指標等を作成するための研究
政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
難治性疾患等政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	日本の輸血医療における指針・ガイドラインの適切な運用方法の開発

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
認知症政策研究事業	麻酔科学	教授	川口 昌彦	外出が困難な認知症高齢者へのAIを用いた介入手法の開発と、遠隔AI操作によるコミュニティづくりの研究	老年看護学 澤見 一枝
	老年看護学	助教	木村 満夫		
難治性疾患政策研究事業	皮膚科学	講師	宮川 史	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	皮膚科学 浅田 秀夫
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	循環器病の医療体制構築に資する自治体が利活用可能な指標等を作成するための研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
	循環器内科学	学内講師	添田 恒有		
		医員	金岡 幸嗣朗		
脳神経外科学	教授	中瀬 裕之			
	学内講師	山田 修一			

Winner Report

政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	講師	岡本 左和子	新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究	公衆衛生学 今村 知明
	麻酔科学	学内講師	内藤 祐介		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
		助教	西岡 祐一		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究	公益財団法人日本心臓血管研究振興会 附属榊原記念病院 磯部 光章
難治性疾患等政策研究事業	看護部	技師	久保 慎一郎	指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究	公衆衛生学 野田 龍也
	公衆衛生看護学	講師	小松 雅代		
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	地域医療構想を見据えた救急医療提供体制の構築に関する研究	国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	ドクターヘリの適正利用および安全運航に関する研究	東海大学 猪口 貞樹
難治性疾患等政策研究事業	公衆衛生看護学	講師	小松 雅代	成育医療からみた小児慢性特定疾病対策の在り方に関する研究	国立成育医療研究センター 賀藤 均
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究	公衆衛生学 野田 龍也
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	糖尿病の実態把握と環境整備のための研究	東京大学 山内 敏正
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究	摂南大学 小川 俊夫
	公衆衛生看護学	講師	小松 雅代		
健康安全・危機管理対策総合研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	地域保健における保健所に求められる役割の明確化に向けた研究	浜松医科大学 尾島 俊之
厚生労働科学特別研究事業	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	健康増進に向けた住宅環境整備のための研究	北海道大学 林 基哉
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	循環器病の縦断的な診療情報の収集、活用方法の検討のための研究	国立循環器病センター 安田 聡
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質評価の全国展開を目指した調査研究	聖路加国際大学 福井 次矢
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	NDB データから患者調査各項目及びOECD 医療の質指標を導くためのアルゴリズム開発にかかる研究	京都大学 加藤 源太
肝炎等克服政策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究	東京大学 小池 和彦
地域医療基盤開発推進研究事業	薬剤部	部長心得	池田 和之	医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究	大阪大学 松村 泰志
	医療情報部	病院教授	玉本 哲郎		
難治性疾患政策研究事業	整形外科	准教授	谷口 晃	早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究	千葉大学 横手 幸太郎
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患政策研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	金沢大学 森下 英理子
難治性疾患政策研究事業	脳神経内科学 リハビリテーション科	教授 講師	杉江 和馬 眞野 智生	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 久留 聡
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	医療・介護のデータの利活用の推進のための、NDB・介護DBの連結可能性および活用可能性の評価に関する研究	京都大学 加藤 源太
教授		今村 知明			
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	公衆衛生看護学	講師	小松 雅代	地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類 (ICF) による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究	国立保健医療科学院 大冢 賢 昭
難治性疾患政策研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美真一
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症センター	病院教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究	富山県衛生研究所 大石 和徳
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業)	総合周産期母子医療センター NICU	助教	谷 有貴	ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究	昭和大学 水野 克己
難治性疾患政策研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	名古屋大学 有馬 寛
難治性疾患政策研究事業	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	性分化・性成熟異常を伴う内分泌症候群 (プラダー・ウイリ症候群・ヌーナン症候群を含む) の診療水準向上を目指す調査研究	浜松医科大学 緒方 勤
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新型コロナウイルス感染症等の健康危機への備えと対応を踏まえた医療提供体制のための研究	自治医大 小池 創一
がん対策推進総合研究事業	消化器・総合外科学	教授	庄 雅之	学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	名古屋大学 小寺 泰弘
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	総合画像診断センター	病院教授	平井 都始子	我が国における公衆衛生的観点からの健康診査の評価と課題	東京慈恵会医科大学 和田 高士
厚生労働科学特別研究事業	精神医学	助教	小森 崇史	日本における新型コロナウイルス感染症流行下での自殺未遂者の背景因子の分析	福岡大学 衛藤 暢明

厚生労働科学特別研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	新興感染症の回復者からの血漿の採取体制の構築に向けた研究	名古屋大学 松下 正
--------------	-----	----	-------	------------------------------	---------------

(2) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業	放射線医学	講師	西尾 福 英之	CT検査時に医師の被ばくをなくし、患者体形に合わせた正確な検体採取とその場で細胞診断が出来るマイクロチップ搭載可能な多機能保持具の開発

(3) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的国際脳科学研究推進プログラム	未来基礎医学	准教授	森 英一朗	筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のためのAIを活用した自動病理診断システムの開発～希少・分類不能心筋症の自動抽出システムの開発～
革新的先端研究開発支援事業	精神医学	准教授	牧之段 学	早期ライフステージにおける前頭前野の髄鞘形成は社会性を制御するのか？
橋渡し研究戦略的推進プログラム (東北大学拠点)	輸血部	教授	松本 雅則	抗ADAMTS13阻害抗体による後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
革新的先端研究開発支援事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	神戸大学 金川 基
感染症実用化研究事業新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	感染症センター	病院教授	笠原 敬	SARS-CoV2 感染無症状・軽症患者におけるウイルス量低減効果の検討を目的としたファビピラビルの多施設非盲検ランダム化臨床試験に関する研究およびファビピラビルを投与された中等症・重症患者における臨床経過の検討を目的とした多施設観察研究	藤田医科大学 湯澤 由紀夫
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するパイオマーカ候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 斎藤 嘉朗
革新的先端研究開発支援事業	物理学	講師	高木 拓明	一分子・質量イメージング顕微鏡の開発と細胞膜機能解析	大阪大学 上田 昌宏
戦略的国際脳科学研究推進プログラム	生体分子不均衡制御学共同研究講座	助教 (共同研究講座)	Wiriyasermkul, Pattama	筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発	未来基礎医学 森 英一朗
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	病理診断学	教授	大林 千穂	病理診断支援のための人工知能 (病理診断支援 AI) 開発と統合的 [AI 医療画像知] の創出	一般社団法人 日本病理学会 北川 昌伸
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のための AI を活用した自動病理診断システムの開発～希少・分類不能心筋症の自動抽出システムの開発～	循環器内科学 尾上 健児
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	循環器内科学	講師	渡邊 真言	光干渉断層イメージングの AI 解析に基づく急性心筋梗塞発症予測法の開発	川崎医科大学 上村 史朗
		学内講師	添田 恒有		
ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	精緻な疾患レジストリーと遺伝・環境要因の包括的解析による糖尿病性腎臓病、慢性腎臓病の予後層別化と最適化医療	川崎医科大学 柏原 直樹
腎疾患実用化研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	腎疾患におけるアミノ酸キラリティを標的とした分子病態の解明研究	金沢大学 和田 隆志
肝炎等克服実用化研究事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	次世代抗 B 型肝炎ウイルス薬導出に向けた創薬研究	理化学研究所 松浦 知和
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)	精神医学	教授	岸本 年史	AYA 世代の精神疾患高リスク群における予防的睡眠マネジメントに関する研究	東邦大学 水野 雅文
エイズ対策実用化研究事業	小児科学	准教授	野上 恵嗣	HIV 関連病態としての血友病の根治を目指した次世代治療法・診断法の創出	自治医科大学 大森 司
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査に基づく予防医学に向けたエビデンスの創出研究	国立病院機構まつもと医療センター 中村 昭則
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	臨床研究センター 生命倫理監理室	教授	笠原 正登	持続血糖モニタリング (FGM/CGM) の血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索	国立循環器病研究センター 細田 公則
		副室長	伊藤 雪絵		
		講師	笠間 周		
創薬基盤推進研究事業	血栓止血薬生体生物学共同研究講座	助教 (共同研究講座)	坂田 飛鳥	血液凝固因子を標的とする中和可能な核酸アプタマー創薬基盤技術の開発	東京大学 吉本 敬太郎
臨床研究・治験推進研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	膵がん患者を対象とした、新規 LAT1 阻害剤の安全性と有効性を探索する医師主導臨床治験	大阪大学 竹原 徹郎
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	総合画像診断センター	病院教授	平井 都始子	超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	近畿大学 工藤 正俊
腎疾患実用化研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKD の診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	筑波大学 山縣 邦弘
女性の健康の包括的支援実用化研究事業	産婦人科学	博士研究員	小林 浩	多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発	東京大学 大須賀 穣

Winner Report

肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	消化器内科学	教授	吉治 仁志	C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	大阪大学 竹原 徹郎
肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授(共同研究講座)	永森 収志	B型肝炎ウイルス(HBV)感染サイクル(生活環)で機能する宿主・ウイルス因子を標的とした新規抗HBV剤・HBV感染制御法の開発	大阪大学 上田 啓次
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	DNA損傷応答・核形態の機械学習による心不全の予後・治療応答予測モデルの構築	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	ゲノム分子病理解析による難治性心筋症における精密医療の実現	東京大学 小室 一成
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	東京大学 小室 一成
ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業先端ゲノム研究開発	循環器内科学	教授 学内講師	斎藤 能彦 尾上 健児	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 照屋 勝治
難治性疾患実用化研究事業希少難治性疾患の診療に直結するエビデンス創出研究(エビデンス創出)	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	三重大学 今中 恭子
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	東北大学 齋木 佳克
革新的医療シーズ実用化研究事業	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の臨床への橋渡し研究	旭川医科大学 東 寛
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究	九州大学 筒井 裕之
革新的がん医療実用化研究事業	成人慢性看護学	教授	田中 登美	がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	国立がん研究センター 小川 朝生
長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業(感覚器障害分野)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	聖マリアンナ医科大学 肥塚 泉
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	SJS/TEN眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	京都府立医科大学 外園 千恵
再生医療実現拠点ネットワークプログラム幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム	生体分子不均衡制御学共同研究講座	助教(共同研究講座)	Wiriyasermkul, Pattama	血管化ヒト脳オルガノイドを用いた脳組織再生技術の確立	島根大学 松井 健
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	糖尿病性腎症、慢性腎臓病の重症化抑制に資する持続的・自立的エビデンス創出システムの構築と健康寿命延伸・医療最適化への貢献	川崎医科大学 柏原 直樹
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	准教授	野上 恵嗣	新生児から成人までに発症する特発性血栓症の診療アルゴリズムの確立	九州大学 大賀 正一
	総合周産期母子医療センター	病院教授	西久保敏也		
難治性疾患実用化研究事業	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	液-液相分離の制御と破綻に着目した筋萎縮性側索硬化症の分子機構解明	徳島大学 齋尾 智英
成育疾患克服等総合研究事業	小児科学	助教	榊原 崇文	新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの実用化に向けた臨床研究	国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	東北大学 堀内 久徳
ウイルス等感染症対策技術開発事業(補助事業)	救急医学	助教	川井 廉之	新型コロナウイルスの検出用デバイスおよび診断薬開発のための基盤研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所 亀山 仁彦
橋渡し研究戦略的推進プログラム(東北大学拠点)	輸血部	助教	早川 正樹	抗ADAMTS13阻害抗体による後天性von Willebrand症候群の治療法の開発	輸血部・教授 松本 雅則

(4) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
戦略的創造研究推進事業(CREST)	脳神経外科学	学内講師	田村 健太郎	脳表現空間インタラクション技術の創出	大阪大学・高等共創研究院 柳澤 琢史
戦略的創造研究推進事業(CREST)	精神医学	博士研究員	岩坂 英巳	仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練	奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲

(5) 公益財団法人全国競馬・畜産振興会

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
日本中央競馬会畜産振興事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	東京大会における意図的異物混入対策事業

(6) 公益財団法人エイズ予防財団

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
エイズ中核拠点病院相談事業	感染症センター	講師	小川 拓	HIV感染者等保健福祉相談事業

(7) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(8) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人 喫煙科学研究財団	精神医学	准教授	牧之段 学	劣悪な小児期体験が惹起する炎症反応に対するニコチン抗炎症効果の検討
公益財団法人 喫煙科学研究財団	精神医学	講師	紀本 創平	摂食障害モデルマウスにおける脳腸相関解析: α7ニコチン性アセチルコリン受容体の役割 (3年目)
公益財団法人 川野小児医学奨学財団	生理学第二	講師	坂野 公彦	ダウン症候群由来 iPSC 細胞を用いた胎児肝研究-造血幹細胞の誘導と肝線維症の病態解明-
Laerdal Foundation	救急医学	教授	福島 英賢	院外心肺停止救命率改善を目的とした Global Resuscitation Alliance の 10 プログラム導入に向けた取り組み
日本動物学会若原眞路子研究奨励助成金	生物学	講師	小林(黒澤) 千余子	淡水産マミズクラゲの性決定及び生物伝搬の謎に迫る
公益財団法人 大阪難病研究財団	循環器内科学	医員	中野 知哉	人工知能を活用した心筋疾患病理診断システム開発と有用性の検討
公益財団法人 大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	尾崎 大輔	高齢者めまい平衡障害に対する前庭リハビリテーション治療の動物モデル作成
公益財団法人 喫煙科学研究財団	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明: 臨床および疫学による多面的研究
公益財団法人 武田科学振興財団	生理学第二	講師	坂野 公彦	疾患特異的血管内皮細胞-脳オルガノイド-オンチップ血管網技術を用いた脳血管奇形の病態解明
公益財団法人循環器病研究振興財団	循環器内科学	医員	金岡 幸嗣朗	医療・介護レセプトデータを用いた、脳・心・腎疾患終末期の実態把握とそれを利用した、終末期医療の質向上に対する提言
公益財団法人 武田科学振興財団	脳神経内科学	講師	桐山 敬生	パーキンソン病の生体リズム障害が非運動症状および病期進行に及ぼす影響
公益財団法人 武田科学振興財団	泌尿器科学	学内講師	三宅 牧人	前立腺組織内および腸内微生物に着目した前立腺癌の一次・二次予防法確立のための基礎研究
公益財団法人 がん研究振興財団	産婦人科学	講師	馬淵 誠士	子宮頸がんサバイバーの Sexuality に関する実態調査と性生活会の維持および質の向上を目的としたパンフレットの開発
花王株式会社 ヘルス&ウェルネス研究所	産婦人科学	講師	馬淵 誠士	[新しい生活様式] が妊婦の栄養指標・ストレス指標に与える影響
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	精神医学	助教	山室 和彦	発達脳の可塑性と社会性の臨界期の解明
公益財団法人 第一三共生命科学研究振興財団	発生・再生医学	教授	栗本 一基	単一細胞 DNA メチル化解析法と組織学の複合による生殖細胞形成機構の解明
MSD 株式会社	免疫学	助教	古川 龍太郎	エピジェネティクスによる呼吸器感染症重症化の病態解明-慢性呼吸器疾患モデルからのアプローチ
MSD 株式会社	感染症センター	病院教授	笠原 敬	カルバペネム耐性 Klebsiella pneumoniae における病原性に関する基礎的研究
MSD 株式会社	脳神経外科学	学内講師	松田 良介	膠芽種に対する NK 細胞と新たな免疫チェックポイント阻害の併用療法の開発
MSD 株式会社	整形外科	助教	稲垣 有佐	骨誘導能を有した人工骨の開発
公益財団法人 日本応用酵素協会	循環器内科学	研究員(留学中)	中田 康紀	心臓における p 22phox の分子メカニズムの解明
一般社団法人 日本血液学会	小児科学	准教授	野上 恵嗣	インヒビター保有血友病 A 患者のテラーメイド治療実現のための高機能第 V 因子治療製剤開発のための基礎研究
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	生理学第二	講師	坂野 公彦	疾患特異的血管内皮細胞-オンチップ血管網技術を用いた脳血管奇形の病態解明
公益財団法人 成長科学協会	糖尿病・内分泌内科学	教授	高橋 裕	成長ホルモン療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにアドバース・イベントの調査に関する研究
財団法人 大阪ガスグループ福祉財団	疫学・予防医学	助教	山上 優紀	高齢者の健康の維持・増進
公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	解剖学第二	講師	田中 達英	エンドソームの機能破綻に起因する疼痛発症機序の解明
公益財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団	精神医学	助教	山室 和彦	唾液中ストレスバイオマーカーによる発達障害児の不登校・ひきこもりへの発達の不測因子の解明
公益財団法人 母子健康協会	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平	幹細胞および組織工学技術を基盤とする血友病 A ユニバーサル細胞療法の新出 病院快適環境整備の効果検証-入院患者における病室内疑似窓設置による睡眠の質および認知機能に及ぼす影響についての検討
公益財団法人 三井住友海上福祉財団	麻酔科学	教授	川口 昌彦	血友病 A 治療に向けた間葉系幹細胞からの肝類洞内皮細胞の作製
公益財団法人 テルモ生命科学振興財団	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模縦断調査
公益財団法人 三井住友海上福祉財団	脳神経内科学	准教授	形岡 博史	後天性・血栓性血小板減少性紫斑病における日本人の疾患感受性 HLA の解析
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	輸血部	教授	松本 雅則	前頭葉-視床室傍核回路が形成する恐怖記憶の神経基盤の同定とその克服
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	精神医学	助教	山室 和彦	自閉スペクトラム症の CD4+ 細胞研究
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	精神医学	准教授	牧之段 学	マウス卵母細胞機能を規定する転写抑制ネットワークの構築機序とその破綻機構の解明
公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団	発生・再生医学	助教	長岡 創	発達脳の可塑性と社会性および恐怖記憶の神経基盤の解明
公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団	精神医学	助教	山室 和彦	発達脳の可塑性と社会性および恐怖記憶の神経基盤の解明

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和2年12月までに累計3283件のご寄附を申出ていただいております。

なお、今号では、令和2年10月～令和2年12月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆100万円以上

秋田 雅弘 様	伊藤 和男 様	大植 睦 様
大鶴 昇 様	大西 英之 様	齊藤 正幸 様
堀越 本司 様	和田 愛子 様	和田 楢典 様

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆30万円以上100万円未満

浅田 秀夫 様	油谷令尹子 様	稲垣 有佐 様
井上 聡己 様	植田 充治 様	岡林 正純 様
奥井 桂三 様	河村 健二 様	北村 弥 様
吉川 公彦 様	熊田 幸江 様	桑原 理充 様
小林 浩 様	小林 昌義 様	齊藤 弥穂 様
齊藤 守重 様	斎藤 能彦 様	嶋 緑倫 様
庄 雅之 様	新名 直樹 様	杉江 和馬 様
鈴木 秀夫 様	鈴木 裕 様	高倉 義典 様
田中 利洋 様	田中 宣道 様	田中 康仁 様
田畑 尚一 様	田伏 守 様	鶴屋 和彦 様
寺田 秀興 様	中垣 滋央 様	中嶋 敏勝 様
中林 仁美 様	中森 孝文 様	新田 望 様
野上 恵嗣 様	長谷川正俊 様	畠山 金太 様
林 需 様	廣橋 里奈 様	本田 伸行 様
三上 洋 様	村尾 佳則 様	室 繁郎 様
森本 勝彦 様	八木 正躬 様	山上 裕章 様
山田 薫 様	吉岡 章 様	米田 龍生 様
吉川 雅則 様		

掲載を希望されないご寄附者様 9名

◆10万円以上30万円未満

井内孝太郎 様	五十嵐稔子 様	石澤美保子 様
泉 哲石 様	糸永 有輝 様	井上 毅 様
今村 知明 様	岩田栄一朗 様	上平 悦子 様
植村 信子 様	上山 健一 様	鶴山 秀人 様
浦 剛 様	江里口雅裕 様	大下麻由美 様
岡田 祐一 様	小川 宗宏 様	奥山 節彦 様
粕田 承吾 様	神谷 達 様	川口 昌彦 様
川手 健次 様	北原 紘 様	城戸 颯 様
木下 國浩 様	桐田 忠昭 様	倉井 信夫 様
小西 公巳 様	小味洸智雄 様	佐伯 圭吾 様
坂本 一喜 様	鮫島 謙一 様	澤井 利夫 様
杉江 美穂 様	田中 忍 様	田中 徹男 様
田山 準子 様	塚田 周平 様	中川 一郎 様
二階堂雄次 様	西尾 健治 様	西川 義弘 様
西村 忠己 様	橋本 俊雄 様	原田 稔 様
坂東 春美 様	久永 學 様	北東 大督 様
細川 彰子 様	本田 操 様	榎谷 貴光 様
牧之段 学 様	松井 一哲 様	松田 良介 様
松本 雅充 様	宮崎 弘志 様	山川 博文 様
吉川 高宏 様	若月 幸平 様	

掲載を希望されないご寄附者様 31名

◆10万円未満

浅井 達哉 様	浅川 勇雄 様	井内 清美 様
五十川雅裕 様	伊藤 直 様	井上 隆 様
大上 幸宏 様	角谷 勇一 様	形岡 博史 様
狩山 純子 様	河野 悌司 様	北村 華奈 様
北村 紀文 様	北村 久子 様	北村 博之 様
北村 里奈 様	児玉 浩明 様	小林 恭代 様
佐野 明子 様	杉本 靖 様	多田 卓仁 様
田邊 香 様	近山 達 様	趙 晶 様
西澤 秀美 様	熨斗 秀興 様	濱田 薫 様
林 満博 様	古川 政統 様	三浦 太士 様
村上 真也 様	村澤 宏和 様	矢野富士夫 様
山中富美男 様	横谷 倫世 様	

掲載を希望されないご寄附者様 45名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

青山 恒一 様	赤坂 咲恵 様	赤坂珠理晃 様
赤羽たけみ 様	荒木 克人 様	池端 雅美 様
石指 宏通 様	伊藤 利洋 様	井戸本靖子 様
岩井 篤史 様	太田 一郎 様	大庭 直樹 様
岡村 圭祐 様	面川 庄平 様	木田 恵子 様
桐山 敬生 様	熊澤 昌洋 様	黒川紳一郎 様
小嶋 秀之 様	小山タミエ 様	小山 文一 様
齊藤 謙介 様	阪井 利幸 様	澤見 一枝 様
島屋 正孝 様	白江 伸宏 様	新熊 悟 様
杉山 友悦 様	鈴木 由希 様	瀬戸 靖史 様
高谷 恒範 様	土田 容子 様	中野 章代 様
中野 利夫 様	中野 竜一 様	浪崎 正 様
橋爪 隆 様	畠中 利英 様	東野 正 様
平井都始子 様	平尾 具子 様	藤原 健司 様
藤本 隆 様	堀江 恭二 様	前川 健二 様
前川 尚宜 様	松本 恒和 様	松本 雅則 様
敷本 明広 様	吉川真由美 様	美登路 昭 様

ご寄附のお申し込みをいただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。



Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要	
2020年	10月2日	北海道新聞	MBT研究所 副 所 長 梅田 智広	MBTリンクが開発した腕時計型センサーで北海道更別村民の健康管理
	10月3日	読売新聞 Yahoo!ニュース	免疫学 教 授 伊藤 利洋 微生物感染症学 教 授 矢野 寿一	柿渋にコロナ不活化効果確認 食品製品化目指す
	10月13日	NHK ニュース	脳神経外科学 病院教授 朴 永銖	乳児揺さぶり症候群にコメント
	10月25日	THE JAPAN MEDICAL SOCIETY 11月号	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史	平城京スタディの研究紹介 (注目研究者としてインタビュー)
	11月5日	「おはよう日本」 NHK 「ニュースほっと関西」 「ならナビ」	感染症センター センター長 笠原 敬	東大寺「お水取り」コロナ対策で一部非公開も対策検討
	11月9日	あやべ市民新聞	MBT研究所 副 所 長 梅田 智広	MBTについて学ぶ初めてのオープンセミナーで梅田副所長が基調講演
	11月10日	十勝毎日新聞	MBT研究所 副 所 長 梅田 智広	北海道更別村でICTを活用した健康見守りサポート事業の実証
	11月10日	読売テレビ 「す・またん&ZIP!」	名 誉 教 授 大崎 茂芳	クモ糸の強度について解説
	11月10日	フジテレビ 「石橋、薪を焚べる」	感染症センター センター長 笠原 敬	コロナとの闘い方を語る
	11月11日	奈良新聞	感染症センター センター長 笠原 敬	CO・OP共済感謝のついで「新型コロナの予防と対策」について講演
	11月12日	産経新聞	感染症センター センター長 笠原 敬	感染者増加の要因と対策についてコメント
	11月25日	読売新聞	感染症センター センター長 笠原 敬	東大寺が新型コロナ対策で「お松明」の拝観を制限すると発表
	11月25日	NHK 「ならナビ」	附属病院 病 院 長 吉川 公彦 集中治療部 病 院 教 授 井上 聡	感染者増加 ひっ迫する医療現場
	11月27日	NHK ニュース	感染症センター センター長 笠原 敬	東大寺の修二会 コロナと両立は
	11月27日 12月5日 12月8日	読売新聞 産経新聞 奈良新聞	法医学 教 授 粕田 承吾	奈良県警察本部長より感謝状を贈呈
	11月27日	奈良テレビ 「ゆうドキッ!」 Yahoo!ニュース他10件	微生物感染症学 教 授 矢野 寿一	お茶による新型コロナ不活化の確認
	11月28日	読売新聞 朝日新聞 産経新聞	微生物感染症学 教 授 矢野 寿一	お茶による新型コロナ不活化の確認
	11月28日～	gooニュース他2件	微生物感染症学 教 授 矢野 寿一	お茶による新型コロナ不活化の確認
	11月28日	関西テレビ 「ザ・ドキュメント」	脳神経外科学 病院教授 朴 永銖	揺さぶられっ子症候群に関して専門的な立場からコメント
	12月1日	県民だより12月号	感染症センター センター長 笠原 敬	予防が大事！この冬の感染症対策 ～新型コロナウィルスから身を守る～
	12月6日	読売新聞	未来基礎医学 准 教 授 森 英一郎	細胞内「相分離」生物学に光
	12月7日	NHK ニュース	感染症センター センター長 笠原 敬	どうする初詣 寺社の受け入れは
	12月10日	朝日新聞	公衆衛生学 教 授 今村 知明	新型コロナ感染症の医療計画への影響についてコメント
	12月10日	読売テレビ 「ten.」	NICU 助 教 谷 有貴	母乳バンクとドナーミルクについて
	12月13日	NHK World Japan 「プロフェッショナル 仕事の流儀」		新型コロナウィルスとの闘い、最前線で立ち向かう人たちの記録
	12月16日	朝日放送テレビ 「キャスト」	脳神経外科学 病院教授 朴 永銖	児童相談所の一時保護に対するコメント
	12月18日	NHK ニュース	感染症センター 理事長・学長 細井 裕司 センター長 笠原 敬	感染対策と観光両立で意見交換
	12月19日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	医学的に正しい新型コロナウィルス対策による「ビジネス活性化ウェブセミナー」
	12月22日	毎日新聞	法医学 教 授 粕田 承吾	法医学解剖における新型コロナウィルス対策について
	12月23日	日本の研究.com	糖尿病・内分泌内科学 教 授 高橋 裕	臨床と研究の両輪が生み出した世界初の下垂体オルガノイドへの挑戦：難治性腫瘍の新たな治療法開発を目指す
	12月25日	朝日新聞	法医学 教 授 粕田 承吾	法医学教室の仕事内容についてのインタビュー

公開講座情報

第4回 奈良県立医科大学附属病院 臨床研究 県民公開講座

開催日時：令和3年2月28日(日) 14:00～16:00

場所：奈良県コンベンションセンター 天平ホール
Web同時配信

概要：市民とともに創る未来への医療
～新型コロナに立ち向かう～
オープニング「新しい医療の創出」
笠原 正登(奈良県立医科大学附属病院臨床研究センター センター長)
座長：五十川 雅裕
(奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター 助教)

講演1 新型コロナウイルス感染症の「これまで」と「これから」

笠原 敬(奈良県立医科大学 感染症センター 病院教授・感染管理室長)

講演2 感染対策の研究成果 ～オゾン・柿渋など～

矢野 寿一(奈良県立医科大学 微生物感染症学 教授)

備考：会場参加は先着200名まで 事前申込必要 参加無料

問合せ先：臨床研究センター TEL 0744-29-8840 (直通)

「第16回地域医療連携懇話会」 日本医療・病院管理学会第392回例会

開催日：令和3年3月18日(木) 14:00～15:30

場所：Web開催 (Zoom ウェビナー)

概要：講演I

「アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の実践と課題」
安東 範明(一般社団法人奈良県医師会 副会長)

講演II

「新型コロナウイルスのこれまでとこれから」
笠原 敬(奈良県立医科大学附属病院 感染症センター長)
座長：吉治 仁志
(奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室長)

対象：医療従事者(職種に関わらず参加可能です)

備考：事前申込必要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室(内線3148)

TEL 0744-29-8022 (直通) FAX 0744-23-9923

ホームページ <https://www.narmed-u.ac.jp/~chiiki/>

主催：奈良県立医科大学附属病院

共催：奈良県医師会 奈良県病院協会 日本医療・病院管理学会

編集後記

皆様からのご協力をいただき第75号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。「学報」では、職員の皆様からの記事を随時募集しています。記事掲載を希望される方は秘書・広報室までご連絡ください。



おうち時間を、
もっと楽しもう。

家族がつながりながら、それぞれの時間も楽しめる。
ファミリー スイートが、さらに進化しました。
仕切りのない大空間を、ワンフロアから家じゅうに。
さらにはウチからソトへ。
無地のキャンパスに家族の幸せ時間を詰め込むように。
おうちで過ごす時間を、プレミアムな時間に変えてゆきます。

住まいづくりは **建築実績No.1** の積水ハウスにお任せください。

※累積建築戸数 / 2,488,226戸(2020年7月31日現在)

カタログ請求からの方

カタログ・
資料のご請求は
コチラ



直接ご相談を希望の方

シャーウッド
榎原展示場の
来場予約はコチラ



土地からお探しの方

奈良エリアの
分譲地情報や
来場予約はコチラ



「シャーウッド榎原展示場」又は「奈良エリアの分譲地」へ来場予約の上、ご来場された方に

「QUOカード1,000円分」をプレゼント!

※初回のみ1,000円分のQUOカード1枚(1家族1枚)を差し上げます。※積水ハウスの他のキャンペーンとの併用はできません。



■お問い合わせ先

積水ハウス株式会社 シャーウッド榎原展示場 0120-536-628

〒634-0006 奈良県橿原市新賀町521
(ABC橿原住宅公園内)

●営業時間 / 9:00～18:00 ●定休日 / 火・水曜日・祝日

